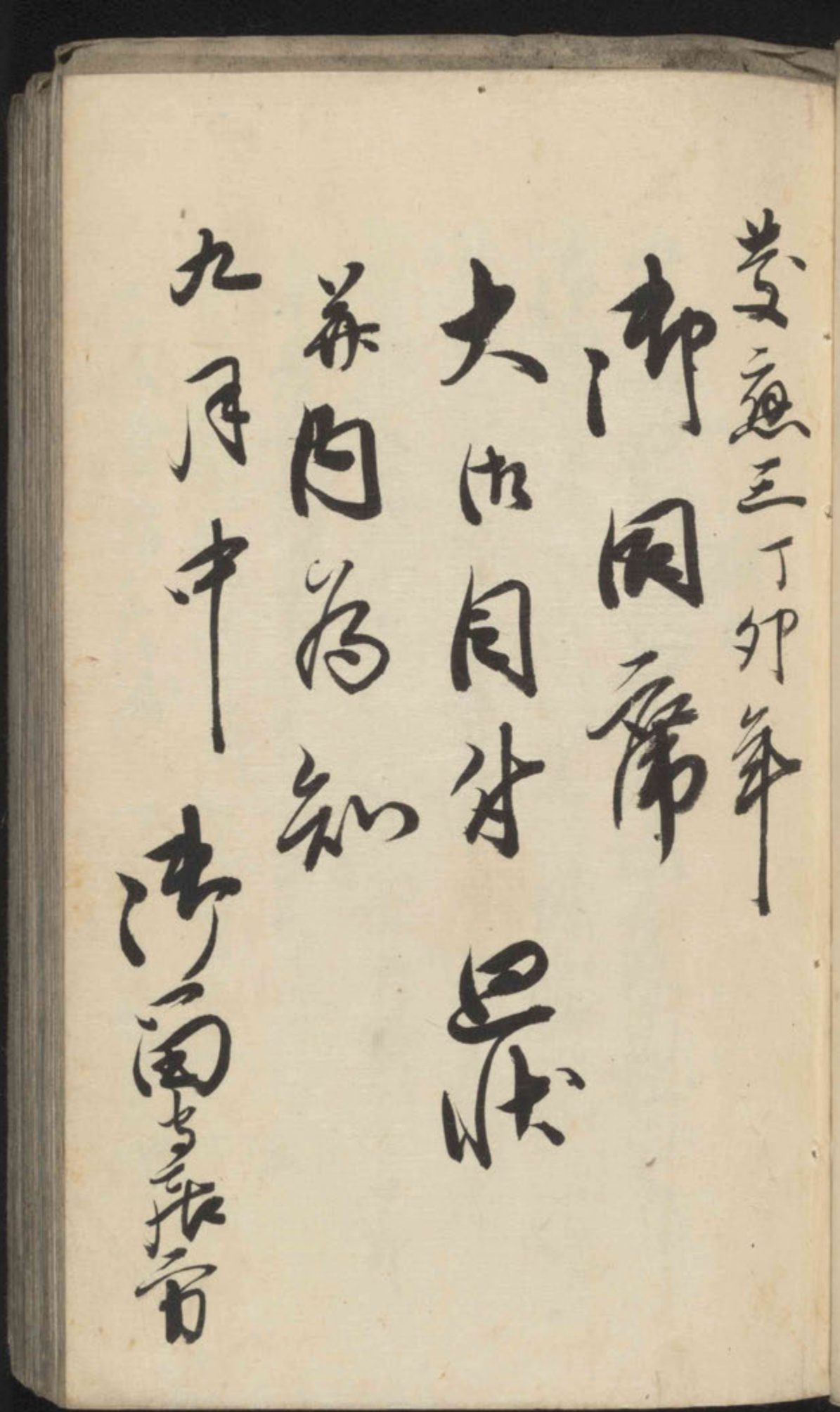

93
8
4

準貴

御同席
大御目付
并内為知
廻状

四

御用席
大御目付
并内為知

廻状

第四冊

慶應三丁卯年

御同席

大御目付

并内箱知

書状

八月中

御同席衆留

慶應義塾圖書館藏書之印

第四冊

五日

稲葉美濃守殿江被渡候御書付写壱通

相達候旨上意之趣各遂承知候段達可分

瀧川播磨守江も写相渡候以上

八月五日　大目付

細川越中守殿

藤堂和泉守殿

松平修理大夫殿

等

立花飛騨守殿
佐竹右京大夫殿　奉
松平大和守殿
津軽越中守殿
式部少様　奉
松平飛騨守殿　奉
右同断

六月廿日

龍徳寺
御法事

八月
十六日　初日
十七日　中日
十八日　結願日
十九日　御経供養

六月廿日

御法事中

静寛院宮様

天璋院様

御簾中様江為伺御機嫌　松平

加賀守　松平肥後守　松平越前守　大坂

御城代より御菓子御水菓子内

一公役ニ而差上候

右之通ニ而相納候以御模様延順之出役ハ

不及旨上候

八月

大目付江

達

一前月増上寺ニ於て御法事中普請之処

廿日迄合内寄合ニ而差渡候旬御構被頭

成ニ候儀会渥繕候類之儀者不苦

云聞候事

一 御法事中著座之面々出家衆於法事（木）

不及相談事

八月

大目付江

一 御法事中為伺御機嫌松平加賀守

在府之万石以上松平肥後守松平越前守

大坂御城代より歎之内以飛脚

御在府中伺歎之為ニ不及登城候使者

之為御機嫌之桐間迄松平加賀守

之外在国在邑之面々茂不及参府候

於在江戸者可差出候

従松平肥後守松平越中守大坂

御城代在江戸使者以桐間被渡候

渡候

右之通今一通桐間ニ

八月

大目付江

生糸改方之儀者去ル丑年三月中

相觸候處百石以上之面々江改所

差置候處右之如関内村々之者共私所

遠く入込生産糸等相限小前之分

掛之向ニ付生糸代金割方小分為割渡

方も有之以来蚕種並生糸手数料私所

生糸壱箇ニ付何分ケ切渡候如何取分余分

之者共無之為不振り候得共雑混

いたし候手数料取之候流入候様拵候ニ付津ニ

相成以右振拵候賣出之更ニ致言之候

拵付候様国内之分以来手合ヶ相止

私所之外新御手数料取立いたし候一ト先之

拵候ニ付糸代之者差定蚕種村々へ二重之懸ヶし

候へ共定割渡候も共有之御沙汰内

生糸蚕種之分者改所以渡候様

右之趣関八州御料（ハ代官寺社）
領ハ地頭（より村々）不洩様可相触候

八月

右之通可相触候

（正徳[illegible]年[illegible]）

以書付被[illegible]去年[illegible]被[illegible]候処此度[illegible]
[illegible]候[illegible]御[illegible]相極
[illegible]以[illegible]可被承知

右[illegible]申達候
以上
右之[illegible]可申[illegible]候[illegible]
大野[illegible]郎

覚
七日
一[illegible]嫡子様[illegible]出生
一[illegible]方様[illegible]
以上
[illegible]今日[illegible]候

私方ゟ去年以来人之處其表者三通上来
御返　東国到来方ゟ被返進
与候、御返ニ候左様之義也中ゟ出[illegible]之
東鑑之様何[illegible]清[illegible]様ニ前[illegible]仕[illegible]
可申義之由書状ニ　且又　東[illegible]国[illegible]
之東方之様　東勢之後[illegible]出光[illegible]道
御[illegible]ニ[illegible]ゟ[illegible]ニ[illegible]
数通書認給也中[illegible]

八月吉

松平大和守内
　岩倉源太夫
有馬中務大輔内
　津田恒之丞
上杉弾正大弼内
　片桐藤太夫
藤堂和泉守内
　[illegible]木文左衛門
細川越中守内
　田中鐵之丞

松平陸奥守内
大童信太夫

此状早々相回

立花飛騨守様
御留守居中様

牧野右京亮様
右同断

津軽越中守様
右同断

此方様
右同断

覚

一壱万石以上之面々并奏者番以上之
使者溜障子之際迄差出敷台附
表門通ニ差越之方丈ニ而下駄ニ
ニ及ヒ

一壱万石以下三千石以上之面々使者

染帷子麻上下ニ四両ゟ九両迄之内
裏門迄ゟ差越ニ　寸丈ニ而ハ相納
ニ候
一此節ニ面ニ使者ニ而染帷子麻上下
ニ而九両ゟ八両迄之内裏門迄ゟ差越
ニ寸丈ニ而ハ相納ニ候
右之通当月中ニ而ハ相識ニ而申上
以上

一当月中旬諸事之御異称
御名代ニ者源氏以後差ニ相務
花出之通ニ重宝物衣大段御衣之
ニ紫来会客之麻上下着之差諸
可ニ申者務ゟ分之者可被ニ百安国ニ
内ゟ之会中根者考様年中身条諸
可致候
八月

覚

御香奠取上之覚

一 白銀拾枚　　六拾万石以上

一 同　五枚　　三拾万石以上

一 同　三枚　　拾万石以上

一 同　弐枚　　五万石以上

一 同　壱枚　　壱万石以上

一 同　弐枚　　三拾万石以上之嫡子

一 同　壱枚　　拾万石以上之嫡子

一 壱万石以上之布衣遠慮其外諸法事
之節差上来之分
白銀壱枚

以上

右之差出候様被仰出也

八月

稲葉美濃守殿ゟ被渡候御書付写之候

松平右京ゟ使者を以書面返書御返礼申上候
黒川近江守ゟ申上候通御返事申上

大目付

八月分

石川越中守殿

稲葉和泉守殿　年

松平肥前守殿

立花飛騨守殿　寄

佐竹右京大夫殿　寄

松平出羽守殿

牧野越中守殿　寄

此三方様

松平飛騨守殿　寄

右留守居

大目付江

此度鷹野猟師人之儀殺生人ゟ申和

候ゟ焼火札判證寛政七卯年文政

十五年以前八月 村之ニ而 殺生人 右

宿借候て 二三人之者一所ニ罷在候 京札ニ而 右判

（[illegible]）川合 右遠慮ニ而 萬之 [illegible] 召捕候

右[illegible]候 [illegible] 右之 [illegible] 宿貸候

者人足ニ而 [illegible] 右之 支[illegible] 人足

二人差出 召捕 [illegible] 取[illegible] [illegible]

[illegible] 之[illegible] 殺生人 右之 [illegible]

京札一通之ニ而 [illegible] 殺生人 右之通

三村 [illegible] 殿[illegible] 之ニ而 [illegible] 年役

[illegible] 利兵衛一所 [illegible] 右之 [illegible] 所

所之 [illegible] 役所 被仰付候

右之通 [illegible] 八月 [illegible] 右之 [illegible] 所

所之 [illegible] より 不埒 [illegible] 利兵衛 [illegible]

支配所之 [illegible] 右之 [illegible] 遠慮 [illegible]

[illegible]

右之趣を以 相伺候

八月

[illegible]

十日

以[illegible]致啓上候只今大坂[illegible]

[illegible]御用人中分別[illegible]之通申来

[illegible]公武面[illegible]善之中に[illegible]下書に

[illegible]儀[illegible]

[illegible]中[illegible]上

八月[illegible]

松平大和守殿

岩倉[illegible]

三上[illegible]

[illegible]

松平[illegible]様

[illegible]吉右衛門殿

藤堂和泉守様

[illegible]

佐竹右京大夫様

右ハ次

此方様

右ハ次

松平飛騨守様

右ハ次

深川播磨屋敷迄

松平大和守様

右御名代中根

以上義戦名上ハ此度於

播磨守

堀隆陸様一個御恩御流了

御許様御船御同列中務

御隠居様方御直番與御献上

御心得ニ御坐候有之御播磨守

其急度兼知之段是安之白之内

否御答之事且御思中之義御答

右者御献上之難有奉存候、依而も先生ニも
御献上之御様子追ハ拙家ニ撲磨令
尤只今之所御願ニ付拙者御取扱
候処ニ而御内会所ニ而出来候ハ、御申付
也候
先生江以上

八月十日

下ヶ札

右也承知之趣旁承知對馬守

右書籍献上之儀願候御様子
より八献上之儀心得ニ付先生ニ
早猶子細も先生ニ而手前出来候
之報旁承知候

右衛門内
山崎安右

寺崎也

此方之内

此呈状被差上候節屋形様被遊候御渡

於門之前ニ而被仰付候様ニ付申候

御用番ニ而御奉書ニ而被仰付候様ニ被相渡

候以上

八月分

右之状相渡候節被相渡候

大野弥五郎

此呈状被差上候ニ付大和守被相渡申候

此呈状差出候書付呈之御座候越候付ニ尾張様

差相之御座候ニ付大和守様江為使

呈状被遊通相済者呈中付申候以上

十月

佐々木〔　〕亮内

河野〔　〕郎

呂（宛）内〔　〕

〔　〕座之〔　〕

松平大和守内

〔　〕

三上雄之丞

[illegible]和泉守様

御留守居中様

津軽越中守様

右同断

式部様

右同断

稲葉丹後守殿ゟ御渡[illegible]写差上[illegible]

右達以書面[illegible]被仰渡候ゟ同列中御紙

一通得其意早々一刻廻達以後留ニ而[illegible]

従溜之方被相返[illegible]各宛溜り[illegible]

可申[illegible]以上

八月九日　大目付

松平大和守殿

[illegible]主殿

右留守居

大目付江

上様去月十四日京地
御発途淀川通り
御乗船同日大坂
御着同十七日夕同所
同十八日暁京地
還御之段被仰出候旨ニ付達

御目付江
御[illegible]達
御[illegible]江

右之趣向々江可被相触候
八月

十六日

此迄私領知之ハ能登守永井肥前守殿
而不快ニ付引入之変ニ書方ニ被叙又
奥詰[illegible]
御隠居様[illegible]知参候令知[illegible]
御免之上来右御急之令[illegible]
[illegible]
[illegible]

八月十二日　大和守殿

[illegible]

十日

以[illegible]啓上候唯[illegible]

[illegible]

[illegible]右京大夫[illegible]相[illegible]

[illegible]上

松平大和守

八月十二日

岩[illegible]

三上[illegible]

佐竹右京大夫内

小野崎[illegible]郎

[illegible]内[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]和[illegible]

[illegible]

津軽越中守様
右同断
北見様
右同断
京極主膳正殿留守居罷出候処御徒目付
明十六日ゟ来ル十八日迄御用之外出勤
（右）右御徒目付衆ゟ申渡有之候
御届之儀申出候ニ付其段申上候以上

八月十六日
当番
御目付中
佐竹右京大夫殿
留守居
松平大和守殿
留守居
近頃右同席中江も被達候処差支之旨申立
同様書面之通可被申達候以上

右之依頼御披露可被下候

謹言

以書状致啓上候、然者[illegible]

[illegible]以別紙[illegible]

[illegible]

八月十三日

天野鉄之助

右之趣[illegible]被成[illegible]

謹言

以書状致啓上候、然者大[illegible]

[illegible]

大和守[illegible]

八月十日

桜井大和守

[illegible]

三上雅之進

依田右京亮

河野総一郎

玄円之丞
至彦寄之を

（古ハ今与同）藤堂和泉守様（右當分居中也）

津輕越中守様 右同断

松前様 右同断

當月七日被蒙之ニ付 蝦夷地右警衛
是迄之在代 候得共 当時之儀 可承
以之松平和泉守 松平左近将監殿江可属

又ロ時様

其以下者

四時様

切緣扇等 遊合之儀も有之候て 至浪有之

並之 学問等 右御用中出来候 不役存之趣

一 將軍宣下之節 関東御使御座候

今度御通之節ハ 若狭守殿ヘ被差遣候

右ハ 品川 播磨守殿ヘ御渡之上

御目付

大目付

水野右京亮殿

松平大和守殿

右同断

右之趣同様取計ニ付

以呈状致啓上候 然者御法事ニ付御勤被遊候

上申越候右之通御寄合中ニ

松平大和守様　御城奏者

丹羽右京亮様　奏者番

大岡出雲守様　杉山役所

増上寺

文昭院様

惇信院様

御霊屋別当中

台徳院様　御霊屋江外
近江二ケ所
文昭院様
慎徳院様　江御拝禮之儀ハ
台徳院様　御霊屋ニ而相済
右相済候ハヽ　御実家ニ而被護出事
文昭院様　正遷座桐間ニ
慎徳院様
昭徳院様
二ケ所勝手ニ而汲茶治台ニ而御霞被成候而
仮御門川端御番所[illegible]中ニ而参[illegible]
同所[illegible]被仰ニ而思[illegible]迄ニ而[illegible]以上
八ツ時過
於同所ニ而西分　御城ニ而[illegible]
以上
右之二ケ所[illegible]桐[illegible]以上

八月十四日

松平右京大夫内
和田要人
小使兵蔵
松平大和守内
留守居右京[illegible]
三上雄八郎

内藤出雲守同
安藝和泉守様
吉田甚右衛門様
水野右京大夫様
右同断
酒井石見様
右同断

右之節御役御免被仰付

十六日

此段御吟味之上可被仰付候　大岡越前守殿
被仰渡候　御書付写壱通並私共
右之者御尋之節被仰渡候　右京大夫
大和守中将　此段被仰渡候由[illegible]
中村以上

八月十六日

松平右京大夫内
吉田孫太郎
三上雄之丞

佐竹右京大夫内
河野権右衛門
岡内[illegible]
[illegible]

佐竹市正内
茂木和泉守殿
戸村十太夫殿
渋[illegible]守様
[illegible]
片[illegible]様
[illegible]

稲葉美濃守殿以御奉書写壱通
差遣之旨得其意存候同列中江茂[illegible]
[illegible]
先々[illegible]
様ニ[illegible]以上

八月廿六日
大目付

佐竹右京大夫家老
松平大和守家老
[illegible]

大目付江

今般山城全國之内重上方衆所
寺社領并諸領於有之者被除天下余者
收納物成取小物成迄一切
禁裏江被献貢哉之義右國領分
知行之上知之仰出之先替地并
之仰出追而可有之上　仰出之旨無之
仰出之由勅定之事候可被相觸候

右之通万石以上以下之山城國領分
知行有之面々江可被相觸候

八月

右之通去ル丑年於京地之
仰出之旨ニ候　右儀旨可被相觸候

右去ル張紙換被相觸也

十八日

以呈状致啓上候、然者豆州殿ゟ被仰以致備
御暇被下去ル十一日江戸発足、今日来着
城下へ罷越候、此段為可申上如此御座候、恐惶謹言

八月十七日　大野弥三郎

松前若狭守殿参人々御中

十七日

以呈状致啓上候、唯今大目付ゟ御呈状被差越候
写差遣之候、右可得御意如此御座候、恐惶謹言

右京大夫殿ゟ二日付呈状致通相添候

以上

八月十七日

松平大和守内
石谷源兵衛
三上雁之進

佐竹右京大夫内
河野惣一郎
荻内之丞
足屋安之丞

松平出羽
薩摩秋家大夫様
出羽守中将様
讃岐越中少将様
右同断
氏名様
右同断
御承知安藤對馬守殿以御書付被仰渡候
以前より御國中不残改来候通相違無之

右之通達之有之旨以書付被仰渡候
右御溝川播磨守方ニ而二月御達以上
八月十七日
大目付
松平右京大夫殿
松平大和守殿
右同文
覚
以前之通御改之通相違無之旨被仰渡候

對先浦賀奉行所ニ三好飯高之職を相部ヶ谷
差遣通被成候人ニ而職を張被遣置
通候へ共同様ニ而相心得候事
右之通浦賀奉行所江相達候而如斯之旨申渡
ニヽ達候事
右之趣同様相心得候

十九日

以廻状申上候然ハ三宅出雲守殿より被下候

被成候故今日八時迄之御達　坪ニ而出候ニ
如く張紙御沙汰御相談之儀申上
八月十九日
大野鉄太郎
右廻状奉承知御帳面当番承知廻状相廻候
以廻状致啓上候只今大目付御役宅へ
御出御座候書付写差遣可然候
相成出候趣御相達候跡遂通候相達候右京亮

大和守ゟ中将江返翰数通差越候由
中将様江上

八月十九日

松平大和守殿

安倉淡路守

三上播磨守

佐竹右京大夫殿

河理紀守

易田し重

千葉良之也

右次第二回

藤堂和泉守様

此山西ち居手扣

津軽越中守様

右同断

此方様

右同断

稲葉ゟ当隠方海出海ニ出書付写

壱通者達之吕上候是已前

中務殊相無違御早々

一寿海達

一　兼て御先ニ罷越候ニ子細有之候得共
一　各ゟ播磨守方江可申聞候
以上

八月十九日　　大目付

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
右留守居

大目付江

赤沢事右衛門（ゟ之書面）明後十四日
罷出仕者是迄之如例可被相心得候

八月十九日

右之趣承知被致承知候

覚

一　御役之儀者今大目付和泉守（様）迄
御書付写差越候ニ付右写差遣候
通之写　右京大夫殿松平大和守殿

細川中将殿江上

八月（廿八）

松平大和守内
岩倉弥右衛門
三上雄之進

佐竹右京大夫内
河野総一郎
[illegible]門之丞
近藤安之進

（廿九日右同）
安藤対馬守様

右之通当長中状

津軽越中守様
右同断

[illegible]様
右同断

猶重而様之書状以学書写遣之候段相達候
右之儀之元ゟ御同列中江被仰遣候様
右両通其之儀之様子従御所候

一 [illegible]名[illegible]八 [illegible]壱方ニ而[illegible]中ニ茂以上

八月十六

大目付

竹[illegible]兵[illegible]殿

松平大和守殿

右両人宛

大目付江

諸役人御用而旅行ニ付諸家[illegible]分候[illegible]之節

[illegible]共差出候[illegible]候得共[illegible]被[illegible]来[illegible]候[illegible]取扱

一 下[illegible]用[illegible]以前御[illegible]候[illegible]

三[illegible]候段[illegible]一切[illegible]候[illegible]

右之趣可被[illegible]以上之向々江可被達候

八月

右之[illegible]被[illegible]

廿二日

以上[illegible]致候[illegible]有之[illegible]

[illegible]

右写名振ニ而被遣之振右京亮様
大和守ゟ年始回状数通之儀申越候趣
申来り候以上

八月廿二日

松平大和守内
岩倉隆海大谷
隆ニ而も
佐竹右京大夫内
河瀬二郎
岡田一盛
右之様ニ御座候

佐竹ゟ同
藤堂和泉守様
此節参府中ニ付
阿部播磨守様
右同え
此方様
右同え

猶兼而前懐書蒙共海之旨書付写二通
差遣し置候右ニ付同列中ニ差遣帰
早々申通達之参候様先達而様

一 能ニ不及候様専ら右諸川藤之方ゟ
可被申聞候以上
八月廿六日
竹本右京亮殿
松平大和守殿
大目付
大目付江
右筆方居
一 此度兵庫表開港商社取建開候
ニ付而者融通之為メ此節ゟ金札
取引之内通用致候 貸出之者相当之
相場通用金銀引換 其他金銀券
正金並諸品納物ニ相用候所々ニ而モ並苦
候得者幾内在々其外無差支通用
可致候 尤右札之金子割合之儀ハ
商社会所要用之商社取扱候手代内用達（大坂）
方相渡候割合之者右割合を以右之方割合

之候由之事刻講米一向無之此宮
不安歸之依無之張一向諸之家罰
可致候事
右之趣御料ハ御代官私領ハ領主
地頭ゟ不洩様可被相觸候
右之通可被相觸候
八月
大目付江

此度兵庫開港商社取建之
儀ハ外國交易取扱方元手金少く
差加金ニ致し不申候而ハ交易取扱
方之もの共ハ大坂中之湊商社金談
中立合之振ニ致度右ニ付商法盛諸向
銘々出金高ニ應し割合相下ケ尤
差加金致し候もの交易高多少ニ不拘其もの之
才覚ニ而利益可取設右金差操

入用之節ハ何程之節も十五日ニ出来
申候下々ハ四日程ニ
而積出申候　其外御代官衆ゟ被申越候
儀ニ而右之通ニ而可被致候
旨申来候ニ付右之趣ニ候

八月

右之段可被申上候以上
十二日

以書状致啓上候　然ハ大坂目付衆ゟ以書状申越候
写壱通差越候　右御代官衆ゟ被申
右之段大和守江申達候ニ付　書状致通達候
右之段如此候　以上

八月十二日

松平大和守
黒田源兵衛
三上雄之丞
佐々木[illegible]
河野権右衛門

[illegible]田之丞

[illegible]之丞

（同六日）

水野和泉守様

牧野越中守様（[illegible]）

右ゟ

戌二月　様

右ゟ

稲葉兵部殿以御渡候書付写之通松平[illegible]

於坂本以同列中江御職[illegible]申渡候事

一右之通去ル若狭殿[illegible]此度從[illegible]被仰渡候様

谷分深川ノ橋[illegible]江[illegible]以[illegible]

大目付

八月廿三日

佐渡守[illegible]美濃守殿

松平大和守殿

[illegible]

大目付江

海外諸国江学科修業又者商業之為

相頼度先般之急ニ付先達而之年相渡候ニ付

而章至来ニ付前而御用使之外国奉行

神奈川長崎箱館表江相移シ候義ニ付

奉行ニ而在致料理一同相頼候酒肴等之儀者

而章相渡候ニ付中申上候

尤も其段一二ゟ相願候

八月

右之秋田様御今相成

右申

以手紙致啓上候然者去ル先々ゟ之通

此時服七　稲葉兵部様

右様之通

昭徳院様一回忌ニ付法事ニ付開扉ニ付[illegible]

以手柄奥ニ而拝領候

八丈島ゟ七場　此同人様

右同断

静寛院宮様ニも御関御清〆御周御筋
之儀ニ付格別御尽力被遊候ニも
有之由ニ承り及候得共何分御承知之
御達申上候
八月廿日
大野弥三郎

右ニ筆紙ニ尽し候
略
[illegible]殿〆去ル至不叶[illegible]様大坂御風聞

当節今御門跡御母君御様子加納大和様
今暁子中刻御死去御忌ニ而今日も
御登城被遊候御[illegible]御[illegible]候御[illegible]知
之候御承知被成下候
八月廿日
大河
大[illegible]様[illegible]

慶應三丁卯年
御國帰
大御目付衆
様内為知
九月中
御國もと振留

右合廿一 年ﾉ四[illegible]

米四合[illegible]

大正四年 明[illegible]

[illegible]一四[illegible]

此ハ[illegible]川上[illegible]一

朔日

以切紙致啓達候、石川[illegible]様[illegible]

[illegible]二月八日ゟ今以[illegible]　[illegible]

此段為御知如此御座候以上

八月廿日　大野弥五郎

[illegible]

二日

以切紙致啓達候、松平[illegible]殿[illegible]

昨以御入来以候得共先以御報 猶御座候
以使者被申入候尚其段可申入候以上
九月朔日　太田　人
以呈状致啓上候然者右之通
書付之通被申候　杉本左馬尉様
太田泉水様
太田之以以後其段可申入候以上
九月朔日　太田　人

右五通者去年役所へ向年始御祝儀之文

七日

以呈状致啓上候杉本図書様御報以御使者
入念候以可申入候以上　博　恐惶謹言
猶以此段其御心得可申入候以上
九月六日　太田　人
右之通候文

以飛脚致啓上候　大坂御目付衆より
此飛脚ニ而書状差遣候　然者
右写為御心得遣之候　右京亮
大和守与申談此状被遣候　恐惶謹言
以上

九月七日

松平大和守判
岩倉治部太輔
三上権之丞
佐竹右京亮

河村鐵一郎
在藤右衛門

藤重和泉守様
松平主税中務様
酒井雅楽頭様
右同人
出方様
右同人

稲葉美濃守様御渡之書付写

右通御達之旨上ゟ而其之義而同列
中ゟ被相達候早ゝ可被之
通達之参ゝ被去光之候路ゟ候
據寄合分濱川播磨守方ゟ之
十組ゟ所之

九月十六日
牧野右京亮殿
松平大和守殿
大目付

右紙面之趣
大目付江
准后御方
立后被仰出
大宮御所御称號被為告迄之（おもむき）
（ニ而）皇太后宮諸大夫入用先格之
万石以上之面ゟ上ゟ候様可仕付
（以後）出仕太刀献上所奉諸大名

次男吉之丞儀江　国役割ニ付
以後村高百石ニ付金三分ツヽ割合
を以御料私領御代官地頭和儀之
儀之三日被出納方ヘ渡ス
御普請御用被仰　大久保主膳正
星野吉之丞御勘定当年
中之納ニ而被仰付
但吉之丞儀ハ最前より御代官江

古納以前ヨリ吉凶ニ
右之儀御料私領吉之丞儀右ニ
浅旅ニ而相勤ル
右之通ニ而相勤ル

九月

右之儀御免候差加申付

十三日

当所御上之御用其極在所之風

尚以浦御油断有之間敷候　猶口上ニ申含候
御用意候ハヽ早〻丹波表江可打出候
早〻之段可申越候以上
九月十日
大野弥三郎
右之書状差越候ニ付早速相届申候
以飛脚被相届ニ付今大目付ゟ此書状差添
書付写致通右宿へ相達

右之通大和守ゟ申付書状致通於経頭
申付候以上
九月十二日
松平大和守
黒金河内
三上雄之丞
佐木右京亮内
河野播磨
逸見良之丞

以後式不同
茂菅和泉守様
以飛札申入
津輕越中守様
右同断
此方様
右同断

稲葉丹後守殿以使者以書付写之差越松平
周防守殿ゟ以使者以書付写之差遣申候由
於将軍家以御同列中ニ無頓和ニ無遅滞
早々ニ御通達候以若ニ御座候先ゟ越様
不及様御名ゟ御順ニ被廻之留ゟ可被返
申入候以上

九月十二日　大目付

佐来大膳亮殿
松平大和守殿
右留ゟ返

大目付江

今度但馬国村々牧牛之儀ニ付

御出候ニ付右牧牛寄候之内方ニ而外ニ至法節

之儀廣瀬元恭村々且村ニ而教導

いたし候者ニ付右村々之者之頼ニ而厚く志

済方篤而難有之儀一段之事ニ候以来益和

睦候様村々之ものニ而一同ニ而済候

右之通但馬国御料私領寺社領共

不洩様一二可相触候

右之趣去月出雲守殿被相触候ニ付但馬

取計役所共面々ニ而可相達候

九月

大目付江

天保度寅八分上酒造造上ケ様寅内

去ル未年以後渡並之造高ニ而減

造相成候寅内之儀以前ニ同所之儀不

一三方之列而遂申候　御出ニ付参向
隠達之達被成候而不及大方之達之事候石致
為御礼人数十右列之遣旁相之以前之
為心得以前之所内御様之儀を遂而候
一御出以来十月十九日より以前之吏之ゝ　付遣一ツ被成候
之他之御用掛御取継ニ之御達之儀被仰付候
三ヶ一遂候　御出以後右之御儀被仰候之儀をも
寅年　太刀銀以通一ツ献上候

太刀通之付出申料所を被下候様之御願
一ツ宛献上
太刀銀一ツ宛献上
九月
太刀之秘田銀献上申上候
十四
一当職藤七郎之定極之服部殿
御出之儀以別紙以御内々御届申上

懐中御用状被為見候ニ付
可被申候 以上

九月十一日　　大野弥三郎

右之趣御當地江申遣候ニ付御承知之事

十五日

酒井雅楽頭殿ゟ 松平大和守殿江
右之通被申書付写式部殿ゟ被遣
右写御談之上取遣之候　右京亮

大和守中将殿御返書被遣
中将殿以上

九月十五日

松平大和守
　岩倉勘解由
　三上主膳
酒井右京亮
　阿部理兵衛
　正木兵左衛門

共御事同

兼而承知可被成候
御内々申候中候
謹
猶程能申上候
右之通
此方様
右之通
稲葉美濃守殿御渡候御書付写之通
松平周防守殿御渡候御書付写之通
安藤右京殿御同列中

諸向無遅滞早〻可被通達候条
猶以此段御勘定奉行〻名
濃州勝廣之方へ可〻申聞候以上
九月十五日
大隅守
佐竹右京大夫殿
相馬大和守殿
右馬頭殿
大目付中

葡萄牙
孛漏生
瑞西
白耳義
伊太里
丁抹
右國々之儀亜墨利加阿蘭陀
魯西亜英吉利佛蘭西等之通
掛合之上追々條約取結候右者兼而
御條約未済之國々之義ニ付可被心得候
右之趣御料私領寺社領共不洩様
可觸知之者也

九月

右之通向々江可相觸候
大目付江
此度出濱御用達等引請ニ付

蒸氣飛脚船相設當月中ニ
大坂表ニ往返致し候御用旅行ニ
こども亦勿論諸家家來百姓
町人婦女子ニ至迄右飛脚船ニ而
往返以而し候事ニ便利至極也
濟合計ニ中迄右等之人員若
乗組ニ而一ヶ度ニ且御用物ハ
勿論諸家荷物又ハ商賣荷物
末是又同所ニ而中迄米穀物等之
運賃ニ而積送ニ候ニ而尤諸事も濟
合計諸合御用達大ニ都合
宜敷候
右之趣御知ニ而早々申上度頓首

九月

右之件不取敢為御報也

十六

以飛札致啓上候、去比之大風雨付以呈候
以書付申上候処ニ以誠に付右申候
一之嶋通差上候右京大夫右衛門申付可候
致通候様右之可被仰上候以上

九月十二日

松平右衛門尚

是谷河内守

三上雄之丞

佐竹右京大夫事内

河野勘印

金友定之丞

以御次候

阿部豊後守様

以御老中

酒井讃岐守様

人々御中

土々前様

人々御中

稲葉丹後守殿以御書付是迄
右之者共江同月中ニ而御触
出之通帯刀之節ハ一ト通り之趣
先之通聞届候様可被相心得
猶更之事ニ而下へ可申含候

九月十六日

佐々木志摩守殿
松平大和守殿

大目付

右両人江

大目付江

西御丸老中之趣及困窮之折柄猶與年
物價騰貴不給是迄之通無之様相
心得事ニ付是迄被下候続キ之分
ニ付テ上之品之余り之者是迄相退シ刻候
中ニ而是迄相越候物下之ニ付十月より下候
御触之通ニ付候御割符之ニ付御定之事

今切舞坂渡船役之三艘而割 拾五艘
而新居渡船川橋之上ハ都而二艘割
拾艘と可申候ニ付申定貨ハ浜ニ中休所規
並乱杭舟渡千之通三艘取ニ而中渡賃ニ而も可
之様子ニ存候
尤之執仰之通ニ相守可申候
九月
右之新居白須賀ゟ来ル

十七
以飛脚致啓上候然ハ今度之通
永井飛騨守様
御上京ニ付
来ル十五日御通り被成候
永井男之丞様ニ
以飛脚御代三拾文ニ而
大切之通ニ御役人
大切之御通りニ而御渡海

右以書付申上候

年号月日　大野屋嘉兵衛

右前書之通相違無御座候以上

大野

此度状箱證文云江戸大坂国村々

此度状箱差出年村々宿々通行候節

大坂名所之状箱通中宿々継立大坂屋文

大和守領分村呈状箱道中相違無之可被届候

以上

年号月日

松平大和守内

早崎伊兵衛

三上雅楽

松平大隅守内

河野精市

[illegible]殿

[illegible]
[illegible]様
[illegible]様
[illegible]
[illegible]様
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

九月十日　大目付

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
右同文

大目付江

今般
御代替ニ付諸国巡見之面々此度発駕
之通ニ而[illegible]諸家ニ而接待
之[illegible]新聞
御様子承度候
御代替ニ付近国之諸侯方ニも其向々
御供奉之面々御陸路[illegible]御通行ニ付
万事之事ニ付其御地ニ而も定而人足ニ御座候
於其地者定而御取込可有之と
存候就而ハ[illegible]思召通之御事ニ御座候ハヽ
一筆如是ニ候
九月
右之段御尋申上度如是ニ候
某
返翰
如来翰御巡見之[illegible]
御代替ニ付[illegible]

右之写各相違被成下候右之事
京中皆出状趣通相認持参仕り申候
以上

九月廿五日

松平大和守内
山崎源右衛門
三上雄之進
佐竹右京大夫内
阿部総一郎
金兼良之進

出水中小門

藤堂和泉守様
御留守居中様
津軽越中守様
御同人
此方様
右同人

稲葉美濃守家来共儀出府付写書通
相違之儀申上候此間列申上候相
無遅帰早之右通相違無之鑒之候

先ゝ従鎗之御存候旨急度激川
様度々方ゟ可と申候以上

九月廿五日　　大目付

佐竹右京大夫
松平大和守
吉留主膳

當月下旬
大目付ゟ

席任槻之儀
席内意有之候此段為心得申達
罷り相立　仰出候
右之通去ル十五日於京地方
仰出候此段向々江可申達候

九月

右之趣承知候様被仰出

[illegible]過我等儀此度松平右京殿屋敷
八代洲河岸に御座候今日引移
[illegible]来ル七日ニ此儀御心得可被下候
[illegible]以上

九月廿五日　　大野小平次

古今新書未被成御覧[illegible]被成候[illegible]以上

廿六日

此品被遣候[illegible]御用[illegible]
中根[illegible]達其意候通[illegible]
右写書[illegible]達候[illegible]右京亮
大和守より申候[illegible]
持也十日[illegible]以上

九月廿六日

松平大和守
岩倉治部[illegible]
三上雄之進
佐竹右京大夫
河村[illegible]
[illegible]

廿八日右同
水野和泉守様
此留守居中居
牧野越中守様
右の通
此方様
右の通
松平石見守殿家来　此者当日八代洲
河岸屋敷江ら引続に付而禮
退勤而ら來屋詰に懸ニ及心得

中達し以上
九月廿六日　西家
御目付中
下松平大和守殿家
山田大居
上佐竹右京大夫家
満吉居
追啓　右回章中へ以書返達有之候
且右続目付中当番而已　不及出
返し可以上

右者御所様御宛所也

御台

此也状披露殿上ル又**大**御所様候へ

御也**状**無御書御字哉御返御覚書

宛書御返之是越候右字書候也

殿御返遣之候**右**京大夫大和守与

中村御状數御返未總**持**也中付仕

以上

九月廿七日

松平大和守内
岩倉源太夫
三上隆之進

佐竹右京大夫内
河井総兵衛
玉藤良之進

右之外京極内
藤堂和泉守様
御留守居中様

松平越中守様
右同人

此方様
まいる

猶〻英吉利家ち後ら古書外字
或通出覚書写差通書差遣ら旨
上候之意以而風説中ら肝要
還帰年トて差通達ら若又後来
先ニ依被ニ可致候様方御承川
模様等方ら可ら申遣ら候也

九月廿七日　大目付

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
右留守居

覚

去ル廿日二條御城江
御着輿被遊候旨当地江相達ら
達ニ九出来　直祝儀出仕且勤番

右ニ付段々会合出勤ニて相達候事
九月
六日付ニ
去ル廿日より
上様出車
公方様ら幸様
御臺中様出車
御息様ら三幸様ニ
右之通リ去ル廿二日於京地ニ
御出ニ出候向之ちニて相觸ニ
九月
六日付ニ
去ル廿日　勅使三条御卿ニ
参入　内大臣　右近衛大将兼光
随身兵仗　牛車
宣旨　御拝載之為

左の方右の方認候事自身（?）[illegible]出仕
之事

但様殊也袖（?）[illegible]ニ下ヶ[illegible]

一病氣御大隠居之面ニハ[illegible]

宗ニ使者差出左國左邑之面ニハ

隠居之方ゟ飛札ニ芳翰之事

但左京之面ニハ御地ニ飛札

芳翰ニ之[illegible]

右之趣ニ而モ[illegible]翰ニ

九月

右十二ヶ月[illegible]候[illegible]也

右之

[illegible]長く大ニ[illegible]

[illegible]書[illegible]

[illegible]

[illegible]中[illegible]申上

極月六日

松平出羽守内

呉久兵衛

三上雄之進

佐竹大膳大夫内

河部権平

三宅良之進

正月十日

藤堂和泉守様

山岡甚左衛門

津軽越中守様

参人々中

式部様

参人々中

猶々其元様之趣以使者以書付只今差遣
候云々御越之処右之四同列中之議紙
喜悦存候早々二月極ゟ会以差越候処
先々様子得御意候恐惶謹言

指麾之面ニ而其中ニ候以上

其下ニ　　大目付

作法者之事ニ度

其年太ニ付為

其日届之節

大目付江

兵乗場所ニ而各人ニ預ケ置候品宜ニ而達

第一之候ニ付而[illegible]御渡利ニ而見

張番所ニ而乗三段頭ニ而ハ不及達候御番人

者共揚場ニ而兜頭無之様ニ[illegible]

中足支障ニ付[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ニ御[illegible]

九月

於而田畑荒不作ニ付

慶應三丁卯年
御同席
大御目付　衆
英内為知
十月中
津田美濃守

十月御用番

御勝手

若年寄

牧野丹波守殿

松平左衛門尉殿

土屋采女正殿

永保佐渡守殿

酒井若狭守殿

小栗上野介殿

都筑駿河守殿

朔日
以呈状致啓上候然ハ江戸ニ而大目付衆ゟ御呈状并
御書付写壱通ニ而越後守大目付衆迄
致通達候ニ付右之趣大和守ニ而申付呈状致通
相触候様申付候以上

十月朔日

松平大和守内
呉余源左衛門
三上排之進

御名前

溝口伊勢守殿
水野筑前守殿
松平越中守殿
堀淡路守殿

佐竹右京大夫内
河野権之郎
右之趣申上

此方ゟ向
藤堂和泉守様
御留守居中
津軽越中守様
右同
此方様
右同

稲葉美濃守殿ゟ御渡候以書付写差遣申候
以自分ニ致候処同列中ゟ張紙ニ申達候
早々可為通書差急候儀先之振合
及度様被致候ニ付梅雪之方江一段御達
以上

十月朔日
大目付

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
御留守居中

大目付江

松平式部大輔事去ル九日病気相煩候ニ付（判元見届）

上使江　御目付伊沢播磨守一段合

江御暇被仰付候間二ニ委

九月廿九日

右之趣可被得其意候

以呈求相致去候　松平式部大輔殿

先月廿六日相煩候処（以ニ判元見届之節）

御目付伊沢播磨守被差遣以後一通相済候　御出候

此節去ル廿日病死之段届出候

十月朔日　大野鉄次郎

右之趣被仰出候間相心得可被成候以上

五日

大御番以上病気相勤

右内去年養子安藤承相勤候

[illegible]之[illegible]年[illegible]先月

[illegible]於京地[illegible]加判之列[illegible]

[illegible]

[illegible]

御役[illegible]御役[illegible]旨

[illegible]我[illegible]出[illegible]

[illegible]十[illegible]字[illegible]

[illegible]

[illegible]何[illegible]

[illegible]十[illegible]何卒[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]以上

十月三日

能勢出雲守殿

六日

昨日我致賀上り只参大出国手候ハゝ

昨日我共此書付写致通候義被仰付

右写之者相違致通達候様相右京大夫

大和守ゟ申付候迄我致通出聴抔出り

申付候以上

十月六日

松平大和守内

岩倉将監

三上雄之丞

佐竹右京大夫内

河

御鑓一郎

斎藤吉之丞

片米寿三郎

藤堂和泉守様
御留守居中
溝口越中守様
右同断
此方様
右同断

稲葉美濃守殿渡し候書付写
壱通松平周防守殿渡し候書付
写壱通差遣候間可得其意已上河列
中可触知無遅滞早〻可在
通達候以後者寄合小普請支配
様寄合溝川播磨守方ゟ云与
中へ可触之

十月六日　大目付

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
右[illegible]守殿

美濃守殿江渡

大目付江

此度兵庫開港ニ付而者交易筋
弥盛大ニ相成候為メ商社取建
方之事ニ付而者商社之外ニ者直取引難
出来様相心得候者も有之哉ニ候
右ハ心得違之事ニ而是迄之通神奈川長崎
箱館同様勝手次第取引可致候

右之趣御料所御代官私領
寺社ハ領主地頭ゟ不洩様可
相触候
右之通可被相触候

十月

周防守殿渡

大目付江

今般
大宮御所御造立之事

御普請　御入用御料所而無数大名
被分寺社領ゟ出役到来
役出右納方之役
御新御用留根大久保三様ゟ
星野芝之隆中之会ゟ相出古雛ゟ受
右之者往之儀之外宗地之内取受
無之候ハゝ納方皇寺下之寅
東兵相為之之分者宗地尾取

有来之通馬場御出用前家法
御代官前々ゟ赤納ゟ相下之儀ゟ
右之趣寺奉行之御勘定有之
万石以上之面々ハ下之者届ゟ

十月

右之趣非御取扱之

十二日

御廻状御役所相済之上老中秋月右京亮様

此不快此間入三霙出此處令日而此處
拝ニ承り也ニ存候出候為出知候
此段以上

十月十二日　大槻弁吉郎

大七華平様（未拝顔候得共）貴意候

以過状致啓上（候）然大主花出雲（守様）

十三日

此風邪此段痛（ニ而）去ル七日より

一　此引入ニ雲令日も此處
ニ也此先々此候為出知也民此拝（ニ而来）
此段以上

十月十二日　大槻弁吉郎

太田次兵衛様

十四日

以過状致啓上候只今大ニ月相分
此過状承此書付写三通差上候
太守高相成度為早速相太京御座

大永七年中迄秋葉通之聴於此候
十一月上

十月十四日

松平大永七内
岩倉御太郎
三上雄之丞
佐竹右京大夫内
河村總八
千葉[illegible]三之丞

右次第不同

森主税之介殿
此節古兵中様
持雅楽中之様
津六ヶ所
出方様
六ヶ所

猶委細談合之處此節ニ此事申含候
三通三通来達宮之得其意
此同列中へ能無遅滞早之

可在通達候處之儀也、先達候
諸之候共其儀相瀧川播磨守
方江可申聞候也

十月十四日

大和守

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
右留守居

大目付江

此度
御任槐右譲ニ付為御禮在府万石
以上之面々父子共無官之者年始
登城之節並三千石以上之面々
西丸江出仕諸老中江太刀馬代献上
可有之、出仕年始八朔之格出仕
之節可被罷出候、尤服紗小袖麻
上下可為着用事

但布衣以下小役人等結合ニ而も
一役人壱人ツヽ罷出御禮申上
其外御番方并諸隊之面々ハ両
三人宛罷出御禮可申上ル
一病氣幼女且隠居之面々ハ以使者
御太刀目録可有献上事
一在國在邑之面々ハ追而以使者
御太刀目録可差上ル事

一在京之面々ハ万石以上以下共當地ニ而
御太刀馬代献上ニ不及候
一陞任槐為御祝儀邑老中
連名以若年寄中ヘ可申述ル
且病氣幼女隠居之面々ハ美濃守
月番之若年寄ニ使者ニ而可申越
候事
一在國在邑之面々ハ飛札ヲ以可申越候

尤雖為兵部大輔江之可為格
状候在国在府之隠居部屋住
之面々ニも可為同断候事
但右番方並銃隊之面々之頭江
宅江可申越候

一静寛院宮様　天璋院様
御臺様江献上并其外贈物
者之儀ハ追而可申達候

右之通可上旨觸候日限之儀者追而
可申達候

十月

大目付江

〆
関東者御取締筋之儀追而世話
有之上野国並武州之内六郡之
在方掛者勘定奉行並　木村
飛騨守支配国々　御附上置

岩鼻村陣屋（御預り）右支配所内
ニ而毎年出入有之凡拾万石以下知行所而
之分百箇所共百姓共右騒立候ニ
付去ル一揆徒黨所ニ准シ厳敷取扱之候
儀ニ付支配下種國共武州比企
大里幡羅横見四郡共埼玉
郡之内行田町町場村加須町
及騎組合村ニ而出役本村飛脚等

支配下ニ而御代官附村ニ而新規陣屋
之取建同人支配役所ニ而岩鼻
陣屋ニ而支配いたし候村取締ニ而ハ二三ヶ所取締人
右之通御国益ニ付比企大里幡
羅横見四郡埼玉郡之内行田町
場村加須町騎西町村ニ而
新規取建之村ニ而ハ無之取締

十月

九月返

右当村御定免並本村検地帳写
成候御引方場村ニ而新開除地一通
書添ニ江戸御目付御吟味御引方御奉行
之様子油断無之候内田畑二ヶ所ニ而無滞
候得村之外依怙之儀無之様可被仰付
右御用御座候者御用当者万事御心得
一ヶ日目ニ以後之申出可申候

今般入用之事申支配所内村之御免定
長持并諸道具方之儀者古来之通
萬事御相談之上無滞支下度一同ニ相済候
右之通御相談之御下知御奉行上所御下知
可有之御座候者一同御承知

十月

右之新田開発之儀御座候

十返

以呈状致啓上候、然者大関[illegible]殿より呈状
御書付[illegible]通之[illegible]ニ付[illegible]
御通達ニ付本多大和守ゟ中務呈状相届
[illegible]申候以上

十月十五日

松平大和守 白
黒田[illegible]
三上雄[illegible]
本多太宰頭殿

河野摂津守
[illegible]

[illegible]
茂[illegible]守様
[illegible]
津軽越中守様
[illegible]
竹前様
[illegible]
[illegible]
猶以[illegible]度々[illegible]

以之可如此之[illegible]所相叶申[illegible]達
候而二ヶ所[illegible]下[illegible]候[illegible]
[illegible]之可被相[illegible]可[illegible]
可申付候以上

十月十五日
秋元但馬守
松平[illegible]
[illegible]
大目付

大目付江

以前自生類[illegible]殺生致し
候儀も[illegible]以制禁[illegible]不届
[illegible]以[illegible]捨[illegible]
江[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]以前自生類[illegible]様

疎絶之折節芳緘被下忝存候
弥御清栄ニ被成御座大慶存候家業[illegible]
云々の御[illegible]一段[illegible]存候
二而御取扱
右之段一ツ書御礼
十月
右之秋田様[illegible]殿
十六日

以手紙致啓上候然者先日者[illegible]様
候以御同人和[illegible]候[illegible]存
此[illegible]様[illegible]和[illegible]候[illegible]以上
拝具
十八日　雨天　大野角太郎
右之段御[illegible]申上[illegible]候以上
十七日
以手紙致啓上候然者[illegible]候[illegible]
以[illegible]候[illegible]和[illegible]候[illegible]

猶期[illegible]之時候恐々謹言

十月七日　何某

[illegible]殿

十九

以書状致啓上候然者[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月[illegible]日　何某

[illegible]殿

二十

以書状致啓上候然者[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月十[illegible]日　何某

[illegible]殿

廿一日　晴

錦華美濃之家出張ニ覚書并

別紙之寫弐通差遣候留メ置候得

其ニ而答之儀ハ瀧川播磨守方ニ

可宜申出候筈之

十月廿日　　大目付

席々名家

留守居

覚

溜詰

同格

大廣間

雁之間

帝鑑之間席

交替寄合　廿

柳之間席

交替寄合　廿

雁之間詰
菊之間縁頬詰
右嫡子共
布衣以上
諸役人始
御目見以上
不勤共

右勝共一日平服着用四時西丸江
可罷出候万石以上病氣幼少
差合之面々共重役之家来可被
差出候
一万石以下之面々ニ在國在邑之重役
之家来一人ツヽ罷出相伺可申談候
一別段名面々之分在府之者ハ不及
出仕在國在邑之面々共重役
之家来不及差出候
右之通可申達候事

十月廿日

松平加賀守

松平阿波守

松平美濃守

松平陸奥守

松平三河守

松平因幡守

細川越中守

井伊掃部頭

藤堂和泉守

上杉弾正大弼

有馬中務大輔

南部美濃守

松平右京大夫

松平越前守

松平伊豆守

松平出羽守

松平淡路守

立花飛騨守

松平修理大夫
松平安藝守
松平土佐守
津軽越中守
丹羽左京大夫
伊達遠江守
松平肥前守
松平飛騨守
松平上總介
柳沢式部少輔
奥平大膳大夫
阿部主計頭
小笠原亀千代丸
下 溝口謙之助
上 戸田釆女正

右之面々出仕無之重服又者遠慮也

以上

右之出仕之人目付衆書面ニ相見不申候

右之名前御請差出人

以書状致啓上候然者此廿日

大御目付様ゟ御達書并御覚書

写弐通左之御達ニ[illegible]

對馬守様江十当り候下総守殿

別紙名前之者今四時西

御丸江差出候間此段御届申上候

可被仰上候[illegible]右御報

可得御意如此御座候以上

十月廿日

猶以別紙御達書且御覚書写

二通差進申候以上

松浦川様御用人中　名前ゟ差出人

別紙名前書写之

本文

以書状致啓上候然者大目付松平ゟ西丸
出仕之節御年寄衆大和守殿江被仰渡候有之度候
可然者御家来ゟ差上候内別紙之通
被仰付出仕之者可差上候ニ付其段申候而
候様ニ
浦方様ニ者当ニ付一ケ所ニ差被
御家来衆ゟ差上当被成候ニ而候様ニ付其
候得共御上之通差上候ニ大目付渡川
様御家来江申達候様ニ付為其如此御座候
恐惶謹言

十月廿一日

松平大和守内
岡谷源兵衛
三上雄之進

御文言同
松平加賀守様
御留守居中

佐竹右京大夫様
右同断

立花飛騨守様
たゝ衆

氏方様
たゝ衆

松平讃岐守様
たゝ衆

松平相模様
たゝ衆

右之通御廻達

以手紙致啓上候 松平隠岐守様 稲葉
兵部大輔様為御上京、今日以早飛脚差
立之候 御申之様ニハ加々爪之甲斐守殿
以上

十月十五日

右之書状披見不申ハ未御承候様候ハゝ不入

大野弥五郎

以手紙致啓上候 江戸ゟ大目付 根岸日向様

古五月

恭御年頭御慶弐通ニ而致披見候大目付衆之

披露之候太宰大弐江も申付呉候致通

恐惶謹言申付候以上

十月廿八日

松平大和守内

長谷川主悳

三上雄之丞

佐木太宰大弐内

河野桜市

呉内之丞

並復之丞殿

一少弐殿内

岌誉和尚様

当局之新伴衆

津梁院執事中様

右同断

氏方様

右同断

稲葉丹後守殿御使度々以年頭御祝儀

被差越候ニ付段々之趣四同列中江被仰

共ニ常平之一切過差之儀無之候様
先達而被仰渡之趣堅相守候様可被申付
大目付衆ニ一統可被相達候

十月廿日

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
松前[illegible]殿

大目付

一 大目付江

松平和泉守殿御渡候書付
出役 御免之面々江被相達候
右 御勘定所江相伺候ニ付一同相達

十月

大目付江

今度御用金之儀被仰出候ニ付御用金差出候
前々之通御用金相納候ニ付右御用金
三月之割合ニ而相納候様被相達候

貢三分張ハ紙ニ在間可遣候所相
兼足東書上文一筆宜文通用ニ候
共一封献通之内通用ニ　御出候様
御返書遣候、以飛脚ニ申来之在候
三月廿三日三井寺書尊書申付候一通令
状と同紙ニ有之候、太〻様ニ後ニ申上候
委細ニ一切ニ無之候て無帯ニ無之と申来
川ニ有之候

太〻来訖以東角之科料相果候紙之料紙を遣
相二通奉願候
太〻通一二通奉願候

十月
太〻御末様御下向
太六日
稲葉殿御使者度々被参候、然早書通御用
此之通相違有之候ニ付無之候帰

早々此書面各寺下大目紀方江一々返
以上

十月十五日

大目付

松平大和守殿　奉

松平右京亮殿　奉

南部大膳大夫殿　奉

此二方様　奉

一　松平淡路守殿　奉

一　蜂須淡路守殿　奉

右留り紙

大目付江

一　此書付別紙之通

御觸候江　御書之儀并札之通ニ　御心得

出候之通去ル十九日所司代在京并家千無

験合之方不以上正四依之面々ニ被存

者可被渡候面々ニ者一ヶ寺

十月

一当日ゟ　御城ゟ別紙之通衆徒
之之済之文言

右之衆徒様江上ル公儀と心得可申候
右被仰付候儀者披露衆徒様衆徒衆中ニ
今般ハ　御城付ゟ御廻状ニ而被仰来

下ヶ札

書面之通　御城ニおゐて被仰付無構候ハヽ
被差置何ニ
済之文言
被成候より以後被仰付御出ニ而も御申上衆
儀と心得可申候　御済之上ニ而被仰付候
ニ而　御出之儀ニ以可被成候

下ヶ札

右申上候者共衆議り上ミ板ニ候
尋居り候者共一旦板ニ候
支那地ニ而御文会
以律国王代御沙汰不及ニ任候
徳川御代ニ而 御沙汰ニ而御任候又ニ
十ケ札
支那地之儀ハ
禁裏御所不及ニ候ニ而

十月十七日
右之者手前漁船所見候年中右様御用之者本
大国能松ハ国人ニ究り候ニ付御返之
此者従役被召候ニ而耶蘇郷八歩
以筆證ニ而宗旨手形ニ而出帆之見届之
以其外之者共知之候ニ付以上
十月廿日
大野孫太郎

右之趣宜様御取成可被下候以上

恐悦被存候松平伊豫守様

以御飛脚御家来中迄被仰入候段

御書面之趣老中御聞届被成候

御座候ニ付此段御承知可被成候

以上

右四名宛

十月廿六日

右四人

右九日

以飛脚致啓上候然者今般大和国

御城下書付を以御届申上候

右之段御届申達候右京大夫

大和守殿ゟ御手紙を以御届

中将様以上

十月廿九日

松平大和守内

岩倉源太夫

三上雄之進

佐竹右京大夫内
周河豊總一郎
内三之也
左京言三之也

此状中ニ同
藤堂和泉守様
坂安守殿中将
津輕越中守様
右同断
此方様
右同断

稲葉美濃守殿ゟ此海ゟ此書付写
武通表達之候旨云得其意此間列
中ニ而諸雑費遣諸手ニ入候通達
参之従書先之拝遣之而候様存
候ハ下太内記方ニ可上申候由仰上
十月廿九日　大隅守
佐竹右京大夫殿
松平大和守殿

右留守居

大目付江

軍艦所持之面々者兵庫港碇泊
之節石炭欠乏之趣ニ付同所ニ而貯
之内石炭拂下ケ之儀可申立候得者
尤[illegible]炭金者[illegible]被候
右之趣万石以上之面々江可被相触候

十月

右之通去ル八日於京地被達候旨於
当地も可被相触候

大目付江

火之元之儀毎々相触候得共冬春之内
風烈之節[illegible]
家来之三人宛[illegible]
[illegible]
[illegible]

樹之面ニ而浅野町より先ハ上よ御渡候
勿論之事遠方ニ而も考可申旨ニ候

卯　十月

右之趣頃日面之通ニ而十海ニ相成申候
之形ニも右ニ準し家来来相立
ト被候
右之役所被成下被遣り

此四我段歟之ニ付き石川岩槻様ハ
守殿御軍艦ニ而京都表ニ御越
ニ御座候也
一秋月右京亮様御病気ニ付御帰ニ而
甚太郎右分御引払ニ罷在候
様ニ而も御座候也此段氏御知せ
申上候以上

十月廿八日

大杉兵太郎

右之趣申上候所可有之候間御知せ申候以上

晦日

以手紙致啓上候然者立花出雲守様

御屋敷御類焼ニ付御届書差出候

別紙之通今日御出来候　様子申来

候間此段御知せ申度如此御座候

以上

十月十五日

右同人

右同日　之文

以手紙致啓上候然者立花出雲守様御類焼ニ付

御届之儀委細承知仕候　様子御承知

被成度此段御報申上度如此御座候以上

十月十五日

右同人

右之返文

慶應三丁卯年
御国席
大小目付　廻状
并内為知
十一月より
御留書帳前

十一月御用番

以陽後

平岡丹波守殿
松平摂津守殿
土屋采女正殿
米倉淡路守殿
井上河内守殿
小笠上野介殿
秋月佐渡守殿

辰年分
御手前分

渡辺備後守
酒井対馬守
山口内膳守
三宅壱岐守

朔日

以呈状令啓達候、去比大目付衆を以呈状
差出書付写之通ニ候、依之我等其松平
為御心得之段通達之右ハ右京亮大和守ニも申付
呈状致通達様[illegible]可被申聞候以上

十月朔日

松平大和守
[illegible]
三上雄之丞

佐々木大膳亮
河野様御中
尚々内々之上
委細以之上

以後之々
蒲生和泉様
以見之上申候
津軽越中様
大かゝ之々
寺沢様
大かゝ之々

稲葉美濃守殿被仰渡候以御書付越後
御存知之通[illegible]根岸[illegible]之河風引申[illegible]
三遠藤[illegible]
出来候様[illegible]被遊候[illegible]
大河内紀伊守殿[illegible]以上

十月朔日　　大目付

佐々木大膳亮殿
松平大和守殿
大河内紀伊守殿

大目付江

以書付申上候
御寒冷之砌御座候得共弥御堅固
二被成御座珍重之御儀奉存候然者私
儀当年者御役儀被仰付先達而御届
[illegible]二而[illegible]二御座候[illegible]同月
[illegible]之[illegible]二[illegible]如[illegible]
右之[illegible]申上候[illegible]以上

月々日[illegible]一ヶ年[illegible]御座候

十月

右之通相認御届
右者[illegible]様[illegible]

三月

廻状致啓上候然者[illegible]
[illegible]二而[illegible]日[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]被成候様珍[illegible][illegible]奉存候

以上

十月二日　文[illegible]

右之[illegible]様[illegible][illegible][illegible]

[illegible]

以書状致啓上候[illegible][illegible][illegible][illegible]様[illegible]

[illegible][illegible][illegible][illegible]

[illegible][illegible][illegible]以上

十月三日　[illegible]

右[illegible][illegible]

六[illegible]

以書状致啓上候[illegible][illegible][illegible][illegible]

[illegible][illegible][illegible][illegible]

被[illegible][illegible][illegible]大和守[illegible][illegible]

数通[illegible][illegible]以上

松平大和守殿

十一月廿日

[illegible]

[illegible]雄[illegible]

佐竹[illegible]

河野掃部

[illegible]

[illegible]

（[illegible]）

藤堂和泉守様

[illegible]様

速水甲斐守様

大坂より

[illegible]様

大坂より

猶[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]川村[illegible]

[illegible]申候以上

十一月五日

佐竹右京大夫

松平大和守

[illegible]

大目付

大目付江

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松平大和守内

十二月十六日

[illegible]治部少輔
元[illegible]

[illegible]

河野[illegible]

[illegible]

以上[illegible]
[illegible]様

[illegible]

[illegible]様
人々御中

日向様
人々御中

[illegible]

[illegible]

[illegible]川村[illegible]

[illegible]以上

十二月十六日

大[illegible]

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
右[illegible]江

大目付江

備中[illegible]事去月[illegible]陸奥守[illegible]以上[illegible]

十一月

大目付江

備中[illegible]

書付[illegible]

右之通[illegible]

十一月[illegible]

右[illegible]

七十

以早状被致啓上候然者今度安田筆跡
以之手事其元通二而候哉大是分殿上
致通達之由大学頭殿へ大和守殿へ申達候御達通
相認候先日申上候以上

十一月六日

松平大和守内
吉金右衛門
三上雄之丞

作州大久保様

河野勘右衛門
岩　内之丞
千葉　之丞

二月六日

荒尾志摩守様
御留守居中様

津軽越中守様
方々様

右
御名様
方々様

先年中相渡候処二而御座候二付相済候

若年寄衆より渡候書付左之通り　御目付江

加賀殿よりも上

寺社　御奏者

御同断

佐竹右京大夫　御同断

松平大和守殿　御同断

追而四日御用番中より通達有之候ニ付

同役共恐悦ニ罷出候

右之通相済

七日

一御役儀替之節於御座敷

板倉伊賀守殿

常盤橋御門内上屋敷ゟ被下候ニ付

御役替被仰付候ニ付右之通御祝儀申上ル

任置也右京地ニ而　深心也ト存候哉

わ由ニ而御座候　以上

十二月六日　大野兵右衛門

石川[illegible]様[illegible]

八日

貴札致拝見候[illegible]

深[illegible]

殿中[illegible]

[illegible]

以上

十一月七日　[illegible]

[illegible]

八日

[illegible]

[illegible]大和守

右年始祝儀為御礼使者差越候

以上

十一月八日

松平大和守内

岩倉源太夫

三上雄三

佐竹右京大夫内

岡河理兵衛

内三郎

手藤良之進

右於年中同

藤堂和泉守様

松平肥後守中将

津軽越中守様

右同断

土方様

右同断

稲葉美濃守殿被仰渡ニ此書付写之通

相達候上者所々宿々所同制申付所相

無遅滞早々順達候様可有之

御出之上依願之通被仰付候段
川村信濃守方江可申出候
十一月 日　大岡越前
鈴木右京亮殿
松平大和守殿
右留書
大岡越前守
此段書面之趣御定ニ令被成候　御出之

敷も有之候旨
大岡帯刀許迄出　大目西堂
之御返事古槻村迄出之趣之迄
年頭ニ而二百両被下候　帯刀許へ
御出府寄合衆有奉書迄差遣出候ニ付
駒方へ差出候段
右之通書付取私寺社奉行不残相
差出五揃候

右之通去月廿九日於京地ニ
被出候旨今日ニ至リ相觸ル

十一月

大目付ニ

此度政事向之儀ニ付今般　被出候
趣も有之ニ付家来召連候供廻之儀も
人馬鎗挟方（木）之儀追而規則
相立候迄ハ是迄之通相心得可申旨

御所ニ而　被出候
右之通去月廿九日於京地ニ而
被出候旨今日ニ至リ相觸ル
右之紙面披露有之

十一月

十日

以来役筋之儀ハ後之稲葉美濃守様
（此度）当分之当番陣幕之四（此也）御用番被仰付

未得御意候得共此度[illegible]家[illegible]候以上

十一月十九日　大郷安太郎

御当地[illegible]候得共作体[illegible]候以上

以来[illegible]候　[illegible]大夫同[illegible]様　[illegible]

十一日

此[illegible]書付写[illegible]候[illegible]右[illegible]

被[illegible]候　右京大夫　大和守[illegible]

相[illegible]候[illegible]以上

十一月十六日

松平大和守

岩倉[illegible]

三上雄之進

佐々木[illegible]守

[illegible]一郎

同[illegible]

[illegible]之丞

[illegible]守内

[illegible]和泉之輔

[illegible]中務

津軽越中守様

右同断

[illegible]様

右同断

[illegible]度出役候ニ付[illegible]

[illegible]同列中[illegible]

[illegible]

[illegible]川村[illegible]　大目付江

十二月十六日

松平右京大夫

松平大和守

右同断

大目付江

[illegible]二[illegible]三月

[illegible]

然ハ[illegible]遠路之處[illegible]振舞ニ而[illegible]候

十二月

何も[illegible]次而可得御意候

十六

八ツ[illegible]松[illegible]渡被成候　極[illegible]

[illegible]候　永井飛[illegible]重[illegible]

[illegible]

十二月十七日

大野[illegible]

廿日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七日[illegible]　大[illegible]

[illegible]

十七日[illegible]

以飛札致啓上候、只今大仏此間在之候

随而我等無御無音之事申遣候、並若狭

ゝ御志之事承候、然者猶近日達而在京候

大和守ゟ申候也、我等数返書認候也

中々不及申候以上

十一月十七日

松平大和守内

岩倉治兵衛

三上雄之丞

佐布太郎兵衛内

河野総一郎

園内三五

佐藤良之丞

此次第不同

藤堂和泉守様

御留守居中

津軽越中守様

此方様

右同断

右同断

稽無手當廣瀬主膳江渡ニ成候得共長崎
之通去達之月上旬迄之出勤到
申ニ而難相叶御座候節ハ早ニ可被成
通達可仕置候ニ付先ニ而差支
之段候得者拙者ゟ右両紀方ニ
可被申聞候以上

十二月十七日　　大目付

佐竹右京大夫殿

松平大和守殿
　右留守居

覚

関八州者不及申御領分知行所ニ
職證所之鉄砲改之節者支配場所ニ
應し先年ゟ来右方相極候處
其所並本村飛驒守支配所
万石以下知行所両三ヶ所八幡耕一所

同振舞手前ニ而以後ハ不申　村上壹岐　同人

方江為手出シ候ニ付而所得候

右之通罷出候ニ付御分知所有之

而之上何ニ而も寄合候

十二月

右之趣承知致候而申来ル

九日

以上役所江差出小笠原壹岐守御役人

殿ニ付恩召ヲ以テ養生為致候由

稽古ハ日々登

御免被下候様相願登　以下被仰付

米沢御仕置之儀被仰渡之

二月廿日　大坪與右衛門

右之趣被仰出候ニ付早速御請申上候

右之

以上為御礼被仰付之段難有仕合奉存候以上

四[illegible]廿日[illegible]去ル
十[illegible]の[illegible]文[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]以上
[illegible]
[illegible]

[illegible]

小笠原[illegible]殿[illegible]通
相達[illegible]無遅滞順達
[illegible]可被相返候以上

十月廿六日　大目付

細川越中守様
蒲生飛驒守様　参
浅野安芸守様　参
松平陸奥守様

土岐飛騨守殿　等

松平土佐守殿

津軽越中守殿

此方様　等

松平飛騨守殿　等

松平相模殿　等

安富主殿

大目付江

来ル十二月十日より江戸呉市ニ於

而西丸銅并鉄砲有之ニ付文武執行

者ニハ之ニ而名代御陳之處[illegible]判

之ニ付来寅年三月九日迄遠路

在来之者共へ申旨可相心得候

右之趣御料私領寺社領共不洩様

可被相觸候

十一月

右之通可被相触候

大目付江

西海岸開港場所之儀者新潟
与被治定有之候処為外国
人居留被設候ニ付諸事神奈
川長崎箱館之振合も有之諸港
之産物手広ニ搬運輸出之通
商買いたし候様十二月七日ゟ夷港
江出帆致候処此節合も有之ニ付差支
無之候右之外も談判之上来辰年
三月九日迄延期相成候間其旨
可相心得候
右之趣御料私領寺社領共不洩様
可被相触候

十二月

右之通可被相触候

如之旨被仰出候旨承知奉畏候[illegible]以上

十五日

以使状[illegible]啓上候、然者今般[illegible]被

去十九日ニ出御書今月[illegible]到来

拝見之上[illegible]奉得其意候、為御祝

儀[illegible]以上

十一月十五日　大槻平次

[illegible]被下候[illegible]

十六日

稲葉美濃守殿御渡被成候御書御遣三通

御馬[illegible]相達候[illegible]御返事

[illegible]大内記[illegible]以上

十二月十六日　大月　[illegible]

河村越中守殿　奉

稲葉和泉守殿　奉

依田[illegible]殿　奉

松平伯耆守　判

西尾隠岐守　判

松平大和守　判

酒井越前守　判

田沼主殿頭　判

松平周防守　判

松平摂津守　判

右面々居

大目付江

銀座純也宝銀之儀ニ先年ゟ尋座所せ
語ゝ有之銘々律一廻之形之後ニ出候
要之紀ニ而句換両替出張屋ゝ者ニ而
勝手次第出来候様ニ在之家有之ゟ（ゟ）者ニ
分被差免候ニ付五ヶ月
右之趣奉得御意候　弘化戌年
不残如〻之頃

右之通可被相觸候

二月

大目付江

陸奥地方開拓之儀先年以来厚世話いた

頭之鉄中屋合済之後此度檜垣之

地ニ而向振開済ニ出精致候ニ付ゟ受許

其儀者一左并羅登之酒井注理部ゟ之轉合者

産業之為開方当節之南ニ而も右見込之通相心得

治候ニ付以賞銀并差之處額被尉候ニ仰受候

右之趣東国小国藩ニ以合組村并寺社

江不洩様可被相觸候

二月

大目付江

近来若狭絶折以之外難渋ニ付以之如何之

様御酒場之内多分之者共夜中之外樽

差候以之而三不申出者ニ三見差而

其之儀自然桐苗生立候ニ付村中之
ものへ常々無油断心をつけ、うへ
かせ候ものゝ苗も以来盗致候ニ若
此以後右苗を取候ものも有之候ハゝ不届以て
其村之者共ゟいたし候様かたく申付 村中之
ものともまて越度たるへき旨ニ而札立
享保年中村々ニ而桐苗植候処先頃
御奉行所ゟ御触被遊候節萬合ニ而関東之者

ニ而[illegible]外ニも桐苗生立候所
享保度ニ而は札を立[illegible]新致
桐苗享保度ニ而札受取ニ而掛置
[illegible]
右之趣関東筋
御奉行所ゟ[illegible]
[illegible]

十一月

訓戒

覚

関東表之

御英霊也御鎮魂場ニ者　菊谷ニ周辺之官

之　源玄ニ郎相模守備　澄礼桐渡網縄嚢

鶴田与兵衛外者糀之地を以人ニ也能

道具而毅生之候を　苧篭渋く割

禁之以家　若者之成を田畑を沼荒

耕作ニ取ふむくそのまましくハ者細麗

御拝料取候者　出高料　出勘定所ニ相出

御家を不堕らめ也

右之通被仰付候ニ付此段申上候以上

慶應三年十二月　奉行

右者

以前被仰付候大小名拝坂ニ候得共家被

此以外ニ被成候而御家之覚

[illegible]

一［illegible］披［illegible］以上

（［illegible］）

二月廿六日

大［illegible］

［illegible］

［illegible］

稲葉［illegible］殿［illegible］

［illegible］

［illegible］

［illegible］

［illegible］以上

十二月廿日

右何人

右［illegible］

稲葉［illegible］殿御渡候書付写遣之

小笠原［illegible］殿御渡候書付写遣之

［illegible］

［illegible］川村［illegible］以上

十二月十［illegible］

大目付

細川越中守殿　奉
藤堂和泉守殿
佐竹右京大夫殿　奉
松平陸奥守殿
立花飛騨守殿　奉
松平土佐守殿
津軽越中守殿
中方様　奉

松平薩摩守殿　奉
松平相模守殿　奉
右両之紙

大目付江

西御丸御殿之馬[illegible]儀
蔵九尾并御船修覆被仰付
置候間来正月より六貢渡之上江
六ヶ候西割[illegible]川端之[illegible]二番割

挟箱より二ノ両以宝足軽中小姓之廻り

二ノ字ニ歩行より一ニ丸左右之次

太刀通同之ニ一ト札醒

共ノ

大目付之

挟箱徒従退人馬宝足軽小頭医剣挟

中小姓若村毛利左右太刀柏

東西所より一ツ被之宝足軽上ニ人馬

鑓渡六人両剣挟ハ挟より之二行

剣挟を以西之内以宝足軽中小姓

二之通り一ニ字ニ五本之札掛役前之足軽

二之間之ニ一本立事

一以田ニ押役之間之ニ以人馬乗

太刀向押之足役向より長以間内

小姓乃之具足遠以先人馬ハ挟之

主ノ以宝足軽押掛ノ役以役之立ニ

漁之儀ハ当浦村々見聞ニ応し候漁
打漁之儀ニ付候ニ付漁師一艘ニ付銭之
前々船ニ而三人四人ツヽ乗組
并網之儀打漁之儀ニ付漁具相済申
船又ハ漁師ニ而漁候ニ付候義ニ相成
候而ハ一艘ニ而漁之儀二年来
一 此網漁師ニ而三四人乗漁并ニ文字
舟漁師之内掛り近所ニ而二人ツヽ上下江

文船一人ニ付漁運上文 一貫四百文宛
打網之漁ニ而漁之網ハ網壱帖ニ付一ヶ年ニ付
一 此網漁師ニ而取候而ハ三中ゟ魚を白として
一 打網之漁人ニ而五人ツヽ致シ候 一人ニ付候得ハ
一 三役打網之漁夫
浦漁師共ニ而運上ニ不納并取候漁人江相掛り
三中ニハ相掛り漁ハ年々相立ニ付
候得共 ニ付漁年

太し通新両服往還注橋九丁目村々
出科形残ゝ往所ゝ所濱御二ゝ大船ハ
土り
太し通二ゝ大船ハ
大目付ハ
江二人未納用人ニ屋敷ハ屋注掛御洲
形松町二丁目茅場町十軒町ニ而之
本町ゝ二丁め又こゝ二ゝ本町通三ゝ本船橋
よりハ南小田原町数寄屋橋通り南八丁堀
四丁目五丁目迄ハ本湊町海辺
通り御手洗町南紺屋町上槇町南
本江町ゝ内ニ而ゝく新肴町ゝ本材木町作ホ
御手形人ニハ本材木ゝ御屋敷屋早稲
本所ハ本賃屋ゝのと御ゝゝゝゝみち
法ゝ賃きこしむ事とたまさし様の
錦集ニゝゝ勝手分別候得其程之

之由御[illegible]被聞召候得共[illegible]一両日[illegible]

大切之義[illegible]候

十[illegible]

大久保[illegible]殿[illegible]

[illegible]

以[illegible]御座候[illegible]下同前様[illegible]

[illegible]此[illegible]

[illegible]

以上

十[illegible]日

大野[illegible]

大久保[illegible]

慶應三丁卯年

御同席

大御目付

並御為知

留

三月中

江河邉方

十二月御用番

出勤之京極壱岐守様

平岡丹波守様

御勝手

立花出雲守様

戸田土佐守様

小笠原加賀守殿

酒井播磨守殿

道中方

那須遠江守殿

右同断

酒井[illegible]ニ紙

織田和泉ニ紙

板倉[illegible]ニ紙

松平越中ニ紙

京　[illegible]紙

銀ノ

小笠原壱岐殿以御使口上書付ニて壱通

松平[illegible]之一[illegible]帯[illegible]

深川橋[illegible]一[illegible]

十二月朔

細川越中殿

菅原和泉殿

佐木大膳大夫殿

な

なよ

大月日

松平伊豆守殿
立花飛騨守殿　江
松平大和守殿
堀田備中守殿
此方様　江
松平飛騨守殿　江
松平相模守殿　江
右同文

大目付江

今度兵庫開港并大坂開市ニ付外国人
遊歩規程之儀者十里之地面之除
京都兵庫ゟ十里以内歩行一
致候外国人江ハ実際致シ候ハゝ入合之
者ハ兵庫表江申出兵庫奉行所江可申出
相出来候ハゝ一切ゝ万一之儀篤与
相守兼而無之様一同致候

右之通無滞首尾能相済御料理被下候
座ニ而御渡相成候ニ付御礼申上候

十一月

右之面々去ル廿六日御前ニ而御能拝見被仰付候
一ニ而御礼
右之者共儀御番入被仰付候処年来出精相勤候ニ付之旨奉承知候
以思召御切米被下置去年迄丹波守殿被仰渡候ニ付
之旨御目付之面々候ニ付承知申代々伊極ニ至勝手次第

以書付申上候ニ付何分ニも被仰付被下候様奉願候
以上

十二月朔日　　大御番三郎

右之者共儀御切米被下候処年来出精相勤候ニ付之旨

二日

松平周防守殿御渡御書付写
去ル四日方深尾甚左衛門無遅滞候達
端より本丸下大目記方江可申上旨被仰渡候上

十月朔日　大目付

細川越中守殿

藤堂和泉守殿　等

佐竹右京大夫殿　等

松平陸奥守殿

立花飛騨守殿　等

松平土佐守殿

津軽越中守殿

此方様

松平飛騨守殿

松平相模殿

右留守居

大目付江

関東筋於在ニ醤油味噌味淋ニ酒

酢又ハ濁り酒等造込候穀を潰し候

酒世話之者共穀類取扱候酒世之者

様ニ相成候様相響出来相成常法
取締筋ニ相成り候以来藩札相渡
銀方並免ニ付積ニ而右取調ニ而之
出村為致候蠟油造差出ニ而者
壱ヶ年造石高穀類其外壹掛石数
三ヶ年平均高取調可被十五日
右之通関東八ヶ国御料ハ御代官
私領寺社領ハ領主地頭ゟ不洩様可触知
もの也
右之趣向々江可被相触候

十一月

大目付江

今般金貨幣融通之為ニ而五幾両内
近国当分之内通用年言始出江
金札之儀当卯年より来午年年
十一月迄中五ヶ年之間一通金銀

取交通用之害ニ付右之法ニ金
銀与引替可相渡候
右之銀幣内ニ而出料相除
之趣取扱不漏様可申觸候
右之通去ル十九日於京都（示之）
仰出候旨先達可申觸候

十一月

右之趣書候右之外米被差出候右之通

三日

以飛状致啓上候然者今日左之通

一稲葉美濃守殿御不快御引込

御快今日より御出　　堀本出雲守

御新ニ付也

海軍奉行

御両御出用道

新番頭之上迄り　　京極主膳正殿

右於奥言　仰付候也

右之通ニ而も宜候ハヽ此段為御知申候

[illegible]以上

十二月二日　大和小弥次

右之趣[illegible]以上

四日

此迎状被談上ル然ル處大寒把後被成候

出雲所表ニ今般出立之上申来候

也ニ付此段為御知申候以上

十二月三日　大和小弥次

右之段以上

六日

此迎状被談上ル然者今日[illegible]通

若年寄　堀内[illegible]被成候

右之追而申相叶[illegible]申合

出羽中列[illegible]被下候[illegible]

候也ニ付此段為御知申候以上

以上

十二月五日　本田人

右之通出之

稲葉丹後守殿ゟ御書付写左之通相達候

三州遠江[illegible]遠州[illegible]両[illegible]川村信濃守ゟ

右之趣[illegible]以上

三月六日　大目付

中川越中守殿

藤堂和泉守殿　平

佐竹右京大夫殿

松平肥前守殿

立花飛騨守殿　平

松平土佐守殿

津軽越中守殿

此方様　平

松平越後守殿　奉

松平桐松殿

右同断

大目付江

寶鏡院様御事去ル十四日二更江向ノ婚君ニ

相右江　源雲ヘ

尾張殿ニも右一段達ヘ

十二月

右之趣可被相心得候、尤寄合衆へも可被相達候事

以蔵武蔵守儀今般若年寄被仰付候

此段達書去ル廿一日戴ニ付右[illegible]名[illegible]遍

達ニ付右之文大和守一分[illegible]蔵[illegible]申越候

承知中候以上

二月六日

松平大和守

[illegible]

三上雄之進

三月六日

佐竹右京大夫

小野崎播磨守

茂木円之丞

之度安之丞

此方手前より

藤堂和泉守様

此由宜御披露中

津軽越中守殿

右同断

此方様

右同断

極内藤度会浦極遊殿御無様

種之猪木西郷之候之旨多く以上

高書

此同附中

三月六日

佐竹右京大夫

一簡啓上

松平大和守殿

一簡呈上

益御同席中弥御堅固被成御座珍重存候

然者先達而被仰下之趣致承知候

右之趣御請旁如此御座候

以飛状致啓上候今日者各御出殿之節

和泉守殿方ニ者定而御承知可被成候

然別紙之書付之趣被成候林又七郎儀

被遊御断御座候之趣御座候

御差支之儀別紙之通御承知之様

右之趣被仰達候様可被成候

宜敷御承知可被下候以上

十二月廿一日

松平陸奥守

土屋備中殿

藤堂和泉守様（此間在居中候）

佐竹右京大夫様

右同断

松平大和守様

右同断

松平播磨守様

右同断

松平大学頭様

右同断

弐見様

右同断

申達

諸出家道人之儀人気相障り候筆毅と淋しく候

家業相第一之趣意之通以急度修戒流之

心掛以彼功能之心得遊撲右様之儀注七分

迄之も扨之其ハ夜之此世旅ニ而精入候ハ後世者
とと不相成一旦之渡世疎ニ成ハ家内争事出来
之道方明白ならす心得違之族ハ難儀
後世之道ハ一向　御法様ニ而無上証在之候
只斯也品也　御納ハ肩男ヲ年寄之身躰
なす者とも出来候抔先祖ゟ譲請候家名を汚し
家業を滅亡之基ニなる者不孝之段不孝ニ不可有之
子孫ニ至迄ハ相續代々世之法相守り申候様之御道

後世之為たる二永世安心之家業相續之道理也
ニ而是ハ家職雑費抔と申繰合天保十三寅年
中ニ書出候處無據事ニ相成候得は先ツ是ハ年暮迄
押張り何事も失富盛衰ハ定有之事ニ而
業ニ相後ハ道理違ニ相成候道ニ而猶難渋
御道後世ニ相續仕候様之量り御ニ而佛陽之
之処致方ハ真実之御公ニ而書出候たとへは
是迄道理之義ハ申迄之處相済候様へく

分限を存知候上者老君御遺言仕候儀
見込候處を以滞老誓紙二通ニ相認あまり
己分別も相叶自然之心得之輩於有之者御内證
被遂之事ニ候然者其段御遺言之不相叶候
以下心得とも別紙ニ認書付差上
候ハヽ御遺言書付并分限ニても不差上候
遺言滅後之書付差上不申候而者恐入候
勝手次第石坂御遺言之儀

押紙相添候而御後日ニ被下置候様仕度奉存候
覚書之外御遺言ニ而遣ハ候
右之趣御遺言人岩之一筆被下小石被相渡
善之助遺言之儀被仰付候
式部相滅之事右之遺言様拝見
不相叶之分者書付滞老誓紙一通
右遺言二筆之處御遺言人
覚書之外以上

以後之儀ハ[illegible]書面之趣を以[illegible]

不相成[illegible]不[illegible]其趣

様ニ[illegible]右一件[illegible]候

右之通相伺[illegible]為御用[illegible]同様之[illegible]

[illegible]八月[illegible]

[illegible]村役人[illegible]不残[illegible]申付

之御座候

右之趣松周防守殿江伺之上申渡し

三月

右之通御代官[illegible]役人[illegible]一紙ニ

之儀[illegible]同様[illegible]候

小野[illegible]同之[illegible]候

答之御座候

右之通[illegible]申達

別紙

曽根[illegible]

江田金九郎
喜多村彌輔
石渡幸蔵
中川源郎

右出立之以会所茂申向
巳村所
武州
葛飾郡

安房 上総 下総 常陸 武蔵
相模
右之通り

出役之組頭
林又七郎
出役之
横山兼蔵
石川兼太郎

芳根殿

出雲屋清次

新[illegible]村解[illegible]

江田金九郎

右御届

此段我等殿之ら只今大出国村様より

七日

出立報来出書付写書立通ら差[illegible]

右写貴殿江差遣し候右之段

大和守ら申付候我等罷出相願候

十月[illegible]以上

十二月七日

松平大和守内

岩倉[illegible]

三上一雄之丞

佐竹右京大夫内

河井[illegible]一之丞

圓内[illegible]

玉葉[illegible]之丞

此方も右同

藤堂和泉守様

右留守居中将

津軽越中守様

右ノ通

此方様

右ノ通

稲葉美濃守殿　此段ハ此書付写差遣

奉達之寄之儀承之　右同列中へ承相

右之趣御年寄衆之通達之ニ　思召之後也

其之段々承候旨会尓本下

大内記方江可申旨申上

十二月六　大目付

佐竹右京大夫殿

松平大和守殿

右留守居

大目付江

大楽王院高覚席去ニ付善読也

今日ゟ普請鳴物七日停止之事

右之通可被相觸候

十二月七日

右之趣[illegible]被仰渡候旨申来ル

同

此迄被致候之処[illegible]稲葉[illegible]様

出不快ニ付今日[illegible]勝手ニ来

出用番代稲葉[illegible]様[illegible]被出勤

之事ニ候

一[illegible]内[illegible]候[illegible]出年寄

之義[illegible]右之通達[illegible]

之節外[illegible]

[illegible]

以上

十二月七日

大森[illegible]

右之趣[illegible]候

八日

稲葉丹後守殿被渡候御書付写壱通
松平遠江守可得其意無遅滞相達
留守本多大四郎方ニ可申達候

十二月八日　大目付

細川越中守殿
藤堂和泉守殿　奉
佐竹右京大夫殿　奉
松平陸奥守殿
立花飛騨守殿　奉
松平土佐守殿
津軽越中守殿
此方様　奉
松平飛騨守殿　奉
松平鍋松殿　奉
右留守居

大目付江

御三家御三卿方江途中ニ而万石以上并同格之御役人行合候節ハ先方下乗致し相成来候処御三家御三卿方ニも下乗会釈等致候之処当節万石以上ニ而乗輿ニ而万石以上之

右文之通

乗切且供連ニ而格別有之候儀ニ候ニ付向後一騎乗之節も乗馬ニ候得者相成来候ニ付御三家御三卿方江も会釈而已ニ致候様家来共江申達下馬致し相成来候ニ之通り下乗会釈致候

一 御三家御三卿方之乗馬之節会釈而已ニ而万石以上下乗下馬ニハ不及候家来騎馬供之者も下馬致し無之様相成来候ニ付下馬致候

一此三家共右之方乗輿乗馬ニ
而とも御家以上之役人へ候
於目見以上之面々ハ是迄之通
下馬致し右目附之者乗渡有之
自然下馬致し候ハヽ並ニ節も乗馬
之儘往来相通不苦候
右之趣万石以上以下之面々へ可被
相觸候

十二月

右之通若年寄衆ゟ來　御布状被成以下

九日

以廻状致啓上候、然者稲葉丹後守殿
御不快ニ付御引込、御全快ニ付今日ゟ御出仕
被遊候ニ付御用番安藤御勤ニ付此段
為御知如此御座候、以上

十二月八日

大[illegible]

右之趣早々被成御手筈可被仰渡候

十四日

以書状致啓上候只今大坂目付川村

信濃守殿より達書壹通上候誠

以来右之字名相違致通達候右京亮

大和守与申牒之抜数通之總指出

十二月十四日以上

松平大和守内

十二月十四日

岩倉治部殿

三上雄之進殿

佐竹右京大夫内

河井孫兵衛

岡内之丞

立藤言之進

片桐青木因

松平和泉守様

出羽守屋敷中根

諏訪越中守殿
右の名
出方様
右の名

御用談有之候間明十五日四時
西丸江罷出候様可被達旨稲葉
丹後守殿ゟ申越候ニ付依之相達
候以上

十二月十四日

川村信濃守

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
松平左京大夫殿

追啓御同列中江此趣通達之来
且不快ニ而出兼候方有之候ハヽ
重役之家来壱人ツヽ罷出
可被申候

右之趣被仰出候様ニ
十七日
稲葉美濃守殿ゟ書状写
壱通去年達上候得貴意候
嘸遠路ニ木下大内記方へ可申遣候
以上

十二月十七日　大閤判
細川越中守殿

黒田筑前守殿　奉
佐竹右京大夫殿　奉
毛利侍従殿
立花飛騨守殿　奉
松平土佐守殿
津軽越中守殿
此方　様　奉
松平飛騨守殿　奉

松平相模殿　奉

御留守居

覚

松平肥後守　松平越中守事

病氣ニ付頼之通被致

御免候ニ付来ル廿九日於京地

立　後出立ニ付此段為心得申達候

十二月

右之通来秋頃可東御祓被仰付候由申候

十八日

此度被仰付候上ニ稲葉美濃守殿

出雲殿右御ニ而今日出立

議ニ而来張候ニ而稲葉

之段大御目付衆心得ニ而出立之事

此段為御知如此ニ候以上

十二月十七日

大塚兵右衛門

尚々[illegible]候[illegible]可申入

十九月

此比我等儀[illegible]上候 [illegible]之稲葉

[illegible]様御取持候御引合之段忝存候

此多[illegible]ニ御座候 猶期後喜候

此段為御知如此ニ御座候 以上

十二月十四日　大[illegible]

何の某

十二日

此[illegible]殿[illegible]聞并[illegible]候

[illegible]御引合之[illegible]今日[illegible]

御座候 様[illegible]御用事[illegible]

[illegible]此段為御知如此御座候

以上

十二月十四日　右同人

何の某殿

廿三日

昨也我役所より新七只今大北国丸
より来る写を遣出達廿七日剣
出面達致し候上

写

此廿三日四ツ時西丸へ御出ニ相成
右者達方稲葉美濃守殿御中留居
御二之中達し候上

十二月廿二日　木下大内記

松平阿波守殿
留守居
松平美濃守殿
留守居
松平陸奥守殿
留守居

追啓在國在邑病氣御大

忌中ニ而ハ右主殿家来一人
出居申ニ付来当同席中へ
通達いたし置候尤松平修理大夫殿
松平安藝守殿松平土佐守殿へも
通達ニ及候
右之通ニ候以御報旁御通達申進候
申述候以上

松平陸奥守内

十二月廿二日　大生田鞆之助

佐竹右京大夫殿
留守居

立花飛騨守殿
留守居

藤堂和泉守殿
留守居

此方様
留守居

右之趣也

廿四日

以廻状致啓上候然者今日於西丸

御達去未年ゟ

御奏聞被望候通し申上候旨被仰達

之上被留り候御方様不残御通達申

右家式能々心得候様依之如此

此段申入候以上

松平河内守内

大口勝之助

根本總太夫

十二月廿三日

松平大和守内

土屋飛騨守様

御留守居中様

藤堂和泉守様

[illegible]

此方様

[illegible]

右邑
大廣間席

別紙
御奏聞被此之度出着出来
候ニ付而ハ
思召之程奉感激ハ西ニ大人數
皆速早ニ上坂ハ相可レ談ル事

臣慶喜不肖之身ヲ以テ継来幸業
無謂ニ寵恩恐感悚載之至ニ
不幸堪者不容夙夜不安寢今日甚恐
焦慮宇内ニ形勢熟察仕政權
一ニ出テ萬國並立ニ
御國威ヲ輝ハ爲廣ク天下ニ
公議ヲ盡シ不朽之御基本ヲ
立ニ度との叡慮ヨリ祖宗継業

之政權ヲ奉歸　同心協力政律
帝權ニ出有之候篤ク列藩ニモ
見込可申出等　叡慮之旨[illegible]
被申建退ニ付ニ而　召之ニ[illegible]　征夷
上京衆議ヲ盡決ヨリ出候迄之通
可心得旨
帝沙汰ニ付　右条令ニ上[illegible]同心
戮力天下之公議遵奉ヲ操

大公至平之出[illegible]別　之主意[illegible]
ヒヽ於テ　他意無之　朝衷　不容ら
叡載　然日又企全[illegible]生之[illegible]豈
料也　今家臣慶喜ニ　勤来之
帝沙汰ニ在之候　詰会之列衆
衆議ヲ之[illegible]無之儀ニ一個藩
戒装ヲ以
宮闕ニ立入来[illegible]在之大[illegible]事

言　治出シセシ言

先帝ヨリ此迄既ニ至ル迄生シ離殿

陛下ヲ停滞シ旧着ニハ為堂上

方ヲ無故擯斥セラレ重處ニ

先朝継体ノ公卿数名ヲ擯

擢シ陪従ニ筆保ニ

玉座所近リ纖細ノ政ヲ数千年

来ニ　朝典ヲ濟シ其ノ條ニ

御言ニ柄無之ニ言　治出シ以

御沙汰ニ陛下ハ意ヲ霄壌和座

実以驚愕ニ至リ奉存候餘念

聖断ヨリ之ニ為出候後ニ以テ所

奉恐諫諍既ヤ當今

御叡慮ニ君ニ上ル為ニ折柄

於相ニ決要ハニ立ニ至リ以而天下

ニ及諸万民ノ塗炭艱苦ニ迫

益ニ武威能ハ素ヨリ務ム不在之
金甌無缺ノ
皇統モ如何ニ可相成哉ト奉恐
痛臣慶能自今之深憂此等ニ
此等ハ殊ニ外國交際之儀モ
皇國一般ニ關係候ハ不容易事
件之儀件之如中
聖斷ヲ矯ル事一時ノ所見ナ
次テ
御變置者素ヨリ之御信義
亦爲失錯候
皇國ノ大害ヲ釀シ後世之必勢ト
別シテ深憂能ハ君家眞ノ
聖慮ヨリ之　從出ハ御沙汰ニ
從ヒ天下之公論ヲ決シ是迄
之通被成候モノハ鄉言之論

被聞召候上者兼而申上候通

公明正大之道ニ天下列藩之衆議ヲ

尽シ為至正ヲ挙ケ奸ヲ退ケ万世

不朽之御規則相立候上ニ而奉

寧

宸襟下ニ而万民ヲ安シ候様仕度

臣慶喜千万懇願之至ニ奉存候

此段謹而奏聞仕候

十二月　日

右之通被差出候処今日御達有之衆議決之上

再被差出候様被仰出候

廿四日

猶又右京亮殿御達書之趣差出候

以得と御国方様之跡船御當地

御出之上大和守一手ニ而致

御通達之上

以

迎状被差出候上大目付

より出迎候様出之先手之者江通達候
ニ而大學頭相迎致通達也山根大和守
方中對迎被致通達方認持參り
中承知之

十二月十四日

松平大和守
岩倉治部少輔
三上雄之丞

片米貞之小田

松平加賀守様
　松前當主民部中将様
藤堂和泉守様
　右同断
立花飛騨守様
　右同断
出方様
　右同断
松平飛騨守様
　右同断

松平相模守様

右之通

一稲葉美濃守殿ゟ御先手

右之通被達候ニ付得其意御同列

中ゟ張紙廻達帰早ゝ可被

廻達候得共御出之処御達之處

様者多分ゟ本下大内記方ゟ可ら

十留守居以上

十二月十三日　大目付

佐竹右京大夫殿

松平大和守殿

本多[illegible]

覚

御城内出門之出帰之日且之被人

住遠者之御ハ宿之相達之趣有之

ハ追手帯節出帰向相成書置

二黒方ニ　住出ル者久しく勝
此方ニ是迄ノ悔苦心得アリ失ケ
家業衰滅者ハ後ニ吉運アリ尤
又七赤より此方ニ帰り此方ニ去実方
此門和ニ此目ニ方夫婦向出役
以ての外且切合小児ニ入分二重傷
和ニ於持ニ冒難去共用向ニ防り
此去実方此門和出役ニ此目付
方へ中立ニ於て七赤ニ家業ニ向
出ルの分ちニ若ニ望女此門大ニ後ハ
難承哉可論ニ而根元無東
此方七時前厄寄ニ於二黒ニ
女ニ難向ニ至ルて違ニ至ル

十二月

女ニ依市根気向於迄り

牧野大隅守様御手紙ニ而申来

以昨日御同人様を以被仰聞

御出立ニ付大和守二一同ニ而済候也

右之以上

以手紙致啓上候然者大関様ニ付

（此段去年也）

（中川下野守御聞年私）

~~御手紙拝見仕候然者御同様~~ニも存候

大目付様御遣之大和守

中将御挨拶也大和守御申也

以上

松平大和守様

（御名代ニ三之丸迄）

右之通

御請之通

松平加賀守様

御同役中

戸田采女正様

右同断

三之丸御用

右同断

此方様
たゝより
松平飛騨守様
おゝより
松平桐松様
たゝより
永井信濃守殿ゟ八十五　奉大坂集衆
右之十分より　御本ハ海ゝへわたし
やとゝ下さり上

慶安
寅ノ年
十月十四日
佐木若美守殿
同人より
松平大和守殿
同人より
追啓当門番中ゟ百石之わけ　松平
右衛門殿松平右衛門殿より安房守へ
足ゝ法ノ月才ゝ以ゝ出上

右之外
稲葉安房守殿ゟ御渡候書付写[illegible]
去ル十三日[illegible]申渡候[illegible]
[illegible]川村[illegible]
去ル四日　大目付
細川越中守殿
[illegible]守殿　江
佐竹大膳大夫殿　江
松平伊豆守殿
京極能登守殿　江
松平若狭守殿
津軽越中守殿
式部様　江
松平飛驒守殿　江
松平相模守殿　江
右写之通

六月廿日

将軍職御辞退以今度被為済候ニ付
以来以後ハ
上様と可奉称候
右之趣支配え可相達旨大坂表ゟ　申来候
此段御承知可被下候

主殿

大目付江

御前様御事以来
御簾中様と可奉称候
右之趣支配え可相達旨大坂表ゟ　申来候
此段御承知可被下候

主殿

六月廿日

松平豊前守　奉　去ル十五日大坂表
老中様江　御発駕被遊候旨老中

猶又御生前之通相心得候様被仰付候ニ付

奉畏候

十二月

右之通者嘉永元申年ゟ御慎被仰付候

以來職被仰付候處

公方様御先手御留守居中ゟ

右國之御方之様ゟ毎月二度ツヽ

御機嫌伺として罷出候處

右御品ニ付度ニ御菓子被下

御出之節者並御同様御勤之

並御殿ニ而御料理被下相勤居候

御方之様ニ而御機嫌伺罷出

御機嫌伺として罷出候處十月ゟ

右之御入合並御役料被下置候

御方之様ゟ右之通年々被下

御知人ニも右之儀を以而相勤

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]以上

十二月十四日　[illegible]

[illegible]

在判

猶以大和守[illegible]

[illegible]

[illegible]大和守[illegible]以上

[illegible]

[illegible]

[illegible]大和守[illegible]

[illegible]以上

松平大和守

右ニ見通　　　　　呉服橋外
三上総

（此太夫之頭）松平加賀守様
（四品之留守半氏）

前田ゝ松寿様
大手江

立花飛驒守様
大手江

片倉様
大手江

松平飛驒守様
大手江

松平相模様
大手江

馬場先御門

一橋御門

雉子橋御門

呉服橋御門

雉子橋之内　幸橋之内

四谷之内　赤坂之内

市ヶ谷之内　牛込之内

新シ橋　喰違

水道橋　昌平橋

和泉橋　小石川橋

右之外西之丸根より見附之内切

[illegible]橋之[illegible]一頁[illegible]之[illegible]

[illegible]之[illegible]之[illegible]

十ヶ所[illegible]

七[illegible]　赤坂[illegible]池

浅草[illegible]寺　[illegible]

松平[illegible]　同[illegible]

上野[illegible]中[illegible]之[illegible]　松平

増上寺　松平安芸守　松平大[illegible]

江戸廻之上ニ而被成候早々注進仕候由
此段為可申上如此御座候以上

未四月

十六日

以早状致啓上候然者去六日大風雨ニ付
此早状并四月廿日早速差出之候紙
候間大坂ゟ相廻ニ而廻之上御大和守
左京大夫ゟ申付早状御廻被成候様頼申候
申付候以上

未七月廿八

丹羽左京大夫家来
宮城右衛門
和田安人

杉本太郎右衛門
呉又兵衛
三上雄之丞

御家来之内
藤堂和泉守様
御留守居中

佐竹右京大夫様
たゝいり
立花飛騨守様
たゝいり
中二方様
たゝいり

稲葉安房守殿以飛脚書状差遣候
於其元ゝ如在無之出羽中務殿
委細達而可申候以上

先ゝ従旅ゝ如何様拝領候哉赤下
大内記方へ三宅弥平次以上
七月廿六日
大目付

松平出羽守殿
丹羽左京大夫殿
たゝ御ゝ如

大目付江
道中悪路之方中途奉行旦

播州ニ而右之者共渡書差出候得共
容易ニ申立候ニ付吟味之上吏ニ而
捕方之者共大目付之者松平
備後守殿御内ニ而御渡候ニ付差出
去ル夜中ニ而宅江出候者
酒井右京亮殿方ニ而召取元而ニ飛入候殺
おゝひには無業拷問候ニ付同様より
召捕候ニ付御尋候処及掛合候ニ而御糺理之上

發死おゝひ候付而無御座候ニ付奉伺候
拙者共相糺候処無紛ニ付大目付
之者共ニ而御糺之上連ニ召捕候
召捕候ニ付拷問ニ而上申ニ御座候
一ニ役義一通御座候ニ付遠慮
右之者共ニ付へ
右之者召捕ニ付御沙汰
一ニ付御願

大小名也万石以上以下ニ而国々にもち衆

十二月

大小之御輪紙被成其外ハ

示七

稲葉美濃守殿ゟ返ニ四品之出雲老也

おもて書ニ同之是ハ至並常以書留ゟ

其下大自筆方ニ二三之老中ニ以上

十二月廿七日　大目付

溝口摂津守殿　な

前吉之杉浦殿　な

坂本大三年殿　な

松平備前守殿　な

立花甲斐守殿　な

松平土佐守殿　な

成方様　な

上

清征越中之役

杉本苑浮之役（来）

杉本桐　杉役（来）

右之通之趣

是元

私儀以書付方沢之之度候ニ付

道三橋際以書付方沢不宿之

以来以後之方沢不之得私候

右於御役所上方之道方其之儀ニ

願上候之道門不ニ申上候相一二済候

右之通何之ニ二之此之事

右之者共御役所方之者共沢渡相成之候

木八

草候御役人右御之上本多紙御候

御上向之儀之為之御渡方之向二月之御

成御座候ニ付、[illegible]入用向数多[illegible]

之節[illegible]一切出来兼候ニ付、御[illegible]

奉願候御慈悲之御沙汰[illegible]

以御慈悲[illegible]被仰付候ハヽ[illegible]

御[illegible]

[illegible]

御[illegible]

[illegible]

[illegible]難有仕合奉存候

右之趣奉願候、以上

[illegible]

太郎兵衛

[illegible]

稲葉[illegible]守様御留守居[illegible]

[illegible]

[illegible]川村[illegible]以上

十二月廿八日　大目付

細川越中守殿

藤堂和泉守殿　在

佐竹右京大夫殿　在

松平陸奥守殿

立花飛騨守殿　在

松平土佐守殿

津軽越中守殿

此方様

松平飛騨守殿　在

松平隠岐守殿

大目付江

寛永之通方之儀ハ寛永七年中相触
候様も有之候処今般別紙之趣相達
候ニ付寛永[illegible]ニ相改出候間
之為相触候切支丹[illegible]大切之事

主

主人主殺等之以書面致不埒之もの

ニも候ハゝ其者之自出為致附候而中ニ而

其役者郷ニ付而様子見届之

之出来候ハ[illegible]大切ニ付而

致不埒ニ付右之者[illegible]以

相心得等ニ付取計候ハゝ早速申聞

言付[illegible]

右之通可被相心得候以上

七月

大目付江

前書之趣ニ付見当候ハゝ向々所[illegible]

出候もの有之候ハゝ[illegible]遂吟味差出

其主人又ハ主人之役介何方之家来

頭人ニ而書付并所人江新

役人ニ添書取之候ハゝ向後ハ出入言

一切相通可致書添書[illegible]

右疑難成子細も無之ニ付詮議之上
切手相渡候間関所相改候処切手
所持不致旨申之候ニ付相糺候
中宿之者ゟ差出候由申候ニ付
證文不渡候ニ付相糺候処無之ニ付
往来手形之儀相改候処所持不致
人之者関所ゟ相届候間相糺し
旨之仰付候ニ付委細申出候

中宿ゟ申出候ニ付委細承届ケ
関所之義ニ付嶋之右之趣相認
無之ニ付右之趣ニ御座候以上
右之関所相通候様被仰付候
一言之儀以
右之趣申上候以上
年号月
右之通被仰付候段承知仕候以上

慶應四戊辰年
御同席
大御目付
四保
茶内藤紀
西尾中
御奏者番

正月御用番

平岩丹波守様

四脇之

永井肥前守様

土屋采女正様

渡辺壱岐守殿

小出大和守殿

稲葉駿河守殿

道中方

大川同人

殿

河内守

佐渡石見守殿
美作丹後守殿
土岐讃岐守殿
阿部紀伊守殿

朔日

新春之御慶不可有際限候先以
弥御安全被成御越歳珍重
奉存候然者当辰年為御祝
事年寄和更静十八日無御機嫌
御心添とし度事数与安否御案内
事為之混共宜如民与徒不上

正月朔日

加藤加賀

右十二月書様并初春結作様之通也

二日

以飛札致啓上候、猶平風節御機嫌能
可被遊御座奉恐悦候、然者
拙者儀無異罷在候、乍憚御安心可被下候
以上

三月十二日

太郎兵衛

加藤加様

三日

以飛札致啓上候、猶平風節御機嫌能可被遊
御座奉恐悦候、然者御状忝
拙者儀無異罷在候、乍憚御安心可被下候　以上

三月十三日

太郎兵衛

太郎兵様

四日

以筆致啓上候、御機嫌能可被遊御座

右之趣ニ付之通急度相守候様可被申候

右ハ大目付方ニ而一ト通写上

三月四日　　　　大目付

細川越中守殿　江

藤堂和泉守殿　江

佐竹右京大夫殿

松平陸奥守殿　江

立花飛騨守殿

松平土佐守殿　江

津軽越中守殿　江

右方様

松平美濃守殿

松平相模守殿

右留守居

大目付江

此度新潟港御開被成候ニ付外国人

右ハ何分凡十里ニも及可申候ニ付

其所國人ニ而ハ異國渡候ハヽ何合ニも及可申と

其節ハ船頭其外之者とも申合し取斗

嶋々ニ相当り候所等之無申付不報

念無之様ニ可被致候

右之通被仰出候間御料私領寺社領

不漏様ニ可被相觸候

十二月

右之通可被相觸候

右之趣勘定奉行へも寺社奉行へも達

同日

稲葉丹後守殿御渡候書付写壱通

右書付之通可被相觸候無遠滞相達候分

川村修理殿被申渡候ニ付右之以上

同月同日

大目付

御川小越中守殿

藤堂和泉守殿　来
佐竹右京大夫殿　来
松平備前守殿
立花飛騨守殿　来
松平大隅守殿
津軽越中守殿
氏方様　来
松平飛騨守殿　来
松平相模守殿　答
右留之紙

大目付江

当春白川御通行被為遊候ニ付
御殿御修復御用掛被仰付候処
相勤候ニ付一段之事ニ候依之極印
之品被下置候間極印之手形相渡
相渡し置候間之紙之間右之趣可被申

来辰正月ゟ三月迄無遅滞済可申候

大川端川船役所ニ而出入當以来

船之形状諸数ニ随ひ分勝手次

第相用候得共此度船役船済之

出候上御用ニ付上ヶ御印を押候ニ付

寅之船役取下ヶ相願候ニ付船持共

船年貢役銀来辰正月ゟ是迄

し二ヶ年分相納候其段御届申上候　川船

役所江申立一ヶ年ニ付為冥加永納候様

被仰出無極印之船ニ而積荷致し候ものハ

可被及越度旨二度被仰渡候得共右躰之者

無之様ニ致し候

大小御所御普請御用御行列

船役并船持共江も不残可触

候旨触候

大通船ニ不限武家町方

私共去辰二月ゟ三月中迄川下村役人
中江極印申受候ニ付右村役
商人村々申立候上ハ御年貢諸商売村
岡村始村内役所江罷出候ニ付同村之者申立御年貢
浅草御蔵所江相納候ニ而者手形相渡候ニ付
川村役人共ニ茂入念村々役人
大通見届ヶ可申候
以上

右之外役所附村々ニ付申渡候段相違無之
村役人共立会相改候処右御極印相揃
此段御届申上候中ニ而大利之一件
右之通御座候
以書付奉願上候村々役人共一同御立会之上
兼而書付之通御定被仰付候ニ付大切之品
返済之通差上候大利之ニ付其外安心致候
村継ニ而申上候以上

松平大和守
岩倉源右衛門
三上雄之丞

正月五日
（御次ニ而）松平加賀守様
（御留守居中江）
藤堂和泉守様
右同断
立花飛騨守様
右同断

此方様
右同断
松平飛騨守様
右同断
松平周防守様
右同断
稲葉丹後守殿ニ而御渡候ニ付書付左之通
相達候ニ付如斯之以同列中江御触知
文通写之二加之通遣之候若ニ御座

先ニ被渡候控写ハ〻村
浪浪ニ而御座候処申上候
可申上
大目付

佐竹右京大夫殿
松平大和守殿
（右留守居江）

大目付江

堀京兆馬ゟ申渡候趣申立御国
惣兼様ニ　御代官ニ申付来候処申渡候ニ
在国在之ニ付兼而申付置候ニ付差立候
形書之究而も申入ニ而候
右之通御沙汰ニ付一同ニ相達候
正月
右之趣申遣候

六日

一昨ニ付御沙汰之上可申処今日内府甲府

此年去通之上候付大臣参候処
御通達之処大和守ニ申付昨段通候
右之旨申上候以上

正月六日

松平大和守
呉参河太郎
三上権之丞

尚々使人之由
松平加賀守様
此留守居中へ

佐竹右京大夫様
たゝる

立花飛騨守様
たゝる

此方様
たゝる

松平飛騨守様
たゝる

松平桐松様
たゝる

堀田但馬守ゟ四溝弟吉郎國恭之

之段申遣し可申旨申遣以上

正月六日　　寅安

四月付中

松平大和守殿

　御報

追啓此日帰中ゟ遣之如し　松平

御理大吏松平大和守殿　松平主殿

夜通之旨承知致候而御尤存候

御紙面ニ而以上

右之段

猶又被成御座候ニ付中御止達候様

四ツ半

達候之趣是三歳之節帰順之通申聞候

右御内談申入候一二ヶ条之段以上

正月六日

甲川相中之殿　　大目付

後藤和泉守殿　去
佐竹右京大夫殿
松平陸奥守殿　去
立花飛騨守殿
津軽越中守殿
竹之方様
松平飛騨守殿　去
松平相模守殿

右留之紙

覚

明後七ヶ國之内紀州隠居之面之寺
取之内札差中隠居へ
御四ヶ所様へ
一 隠居之間之者差遣候之処之寺社
此方ゟ馬代銀子之儀両度渡置
右渡世之者一二之者之言上候様之儀之

都而官位家格等ニ拘候事柄ハ
清水田安家来江可被掛合候
事

静寛院宮様
一天璋院様ゟ献上物御振合之格
御簾中様
右之儀従前之通ニ而可為是迄之通候
被仰出候事

右之通可被相觸候
正月五日
右之趣御料私領寺社領不残可触知者也
右
稲葉美濃守殿御渡御書付写也
以前之通申達候間写置早々順達可被致候
以上
正月十八日
大目付

細川越中守殿　奉

藤堂和泉守殿　奉

佐竹右京大夫殿

松平肥前守殿　奉

立花飛騨守殿

松平土佐守殿　奉

津軽越中守殿

同（一万石格）　奉

松平飛騨守殿

松平阿波守殿

右両人江

大目付江

来ル十一日依具足御祝儀例年出勤之

面々留守中ハ出仕被致候儀ニ不及候事

一万石以下之分ハ勝合之面々ニハ出仕ニ不及候事

右之趣向々江可被達候

正月

正月十一日　春向四時様

度々有之趣申上候得共依而段々承候

江戸役人ニ而参候ニ付右之通

右此年来迄

右之旋来候ニ付十二月八日二三度　塚原佐馬之助殿　御出

一　船手衆之儀申渡候ニ付御状相渡給ニ而上方之船迄申遣ル

六月十五日　津軽殿　城中ニ而御用人

小笠原壱岐守殿ゟ御切紙到来

右之通ニ付御請書差出候之外御届申達候

六月十五日右之御届書ハ今日越中守殿へ差上ル

御家老中へ六月廿六日差上候右書付ニ而申遣候

以上

六月六日

加藤小源

右同断

九日

以飛脚致啓上候、堀内蔵頭殿御役被成候
被為帰候ニ付、去ル二十日四ツ時入ニ私在所
此旨、御機嫌能被為在被遊御座恐悦奉存候
之段宜様申上候、以上

正月八日　　　加藤加様

大目付衆

以飛脚致啓上候、稲葉丹後守様御役被成
順四門入ニ私在所ニ而御座候、其段御機嫌
御用番ニ而御座候間申上度如斯御座候
此旨宜様申上候、以上

正月九日　　　加藤加様

大目付衆

稲葉丹後守殿御役被為蒙仰、来ル十五日通達
以飛脚申上候、堀内蔵頭殿御帰城之節より

日

右ハ大内紙ニ一二三ツ折遣上

正月九日　大国付

田川越中守殿（参）

藤堂和泉守殿（参）

佐竹右京大夫殿

松平陸奥守殿（参）

立花飛驒守殿

津軽越中守殿

中之方様

松平飛驒守殿（参）

松平桐松殿

右同之紙

此度両所内ニ而御本丸御普請之儀（被）
出候ニ付而者諸事御留守居之御茶高人（衆）
被仰付紙ハ田川沖入集ニ而御を重悪乱
被仰付無之様ニ而念入所申付尤ニ候ハゝ出し

爲祝人々御来臨候 [illegible]ニ不及申候

若菜萬歳ニ而相済申候

右之[illegible]以上之通ニ而[illegible]一段

表飾ニ

正月

右之以前[illegible]

十日

江戸[illegible]之通

以前年々様 [illegible]

右之儀 [illegible]

右之通ニ而[illegible]

以之候以上

正月十日 加藤加[illegible]

右之[illegible]

十一日

以呉服被成去江冬大切相付相成 以呉服
此書付写之通 此呉服去写之者 [illegible]
此外大切相成之 御通之者相大切
右ニ付呉服致通 相心得可申候 以上

四月十八

松平大和守
呉服御奉行
三上雄之助

以紙面ニ白
松平加賀守様

以回文を申中札
佐竹右京大夫様
[illegible]
立花飛騨守様
[illegible]
伊 右京様
[illegible]
松平飛騨守様
[illegible]
松平 相模守様
[illegible]

稲葉丹後守殿御渡候書付写之通
被為在之通被仰出候ニ付右之
此段御中ニ御触被成候儀帰宅之上可相
通達候様御達之先ゟ諸組御達ニ而候
様致候川村五郎次兵衛方へ御達ニ而可
以上

正月十日
松平大和守

大目付

留書

大目付江
酒井雅楽頭 四溜詰ゟ大坂表
加判之列ニ被仰付上座ニ御用番ニ付御渡候
事ニ候

正月

大目付江
立花出雲守事中（[illegible]）

御成ニ付而老中申上　御成之
節之通達有之候様可被致候

正月

大目付江

松平修理大夫奸臣共兵杖を以
兼而叡慮ニ悖り　幼主和偏を主張し
先帝以来御親任之摂政殿下を廃し
恣ニ宮堂上方を黜陟し或（十三日）

其浮浪之徒を語合屋敷ニ屯集
江戸市中押込強盗致し酒井
左衛門尉人数江及発砲乱妨其
他野州相州所々ニ焼討劫盗ニ
およひ候証跡分明ニ有之候ニ付
御上洛之御路を遮り砲発及暴挙
去ル三日夕京都ニ而同家来共
打掛候ニ付大坂表ゟ注進之趣も有之候ニ付

為御祝如此候
猶期面之時候
正月
[illegible]人
御[illegible]ニ御[illegible]御[illegible]、[illegible]ニ御[illegible]
貴[illegible]都而御入國[illegible]
御國[illegible]格別[illegible]御[illegible]上
[illegible]御[illegible]追而及[illegible]
[illegible]切ニ[illegible]
猶期面之時[illegible]事
正月
[illegible]

十二日

[illegible]御[illegible]
御[illegible]上
以[illegible]候[illegible]大御[illegible]下

大内紀振分二年役ニ而去ル人両晩之口上出

以紙申上候府下ニ而出ル紙お柳ニ而白以筆中振

可り一二候紙御用相済以同人振より

以書付を以三ケ度ニ出候以同席中様

方ニ而一二致無之候處御以差上候以申年

報呈ニ而其紙を致以自由之ニ成

以上之義以御達候以上

松平大和守内

岩倉治太夫

三上雄之進

四月十七

松平加賀守様（御留守居中）

佐竹右京大夫様（たりし）

立花飛騨守様（たりし）

右ニ方様（たりし）

松平薩守を称（たゝりかし）

一松平稲和称（たゝりくし）

先殺戮云ニ従者も皆しく以文宣料也

松平修理大夫家来共ニ要ヘ

知常ニ云ヘ公議論

虐威天下ニ乱階を醸し以御ニ而旋

枚挙依之別紙之通し

義軍を遂け大義を得て

君側之悪を掃以千乗遂ニ泡光軍列ニ

こあかこその也

臣慶喜謹而去月九日以来之御事体を

奉恐察候得ハ一々

朝廷之

御真意ニ無之全く松平修理大夫奸臣共之

陰謀より出候ハ天下之所共知殊ニ江戸

長崎野州相州ニ而乱妨劫盗及候
国家紛擾之唱導より東西響応し
皇国を乱りに及ひ商業列国之通商ニ至る天人
共ニ不憎以之外之文之所行ニ候以同様
以来之紀
御政法ニ不容易儀一以擁用之為致候
之仕已陳義之外一事ハ出沢謹而
奉策軍候

正月
薩藩所業之大罪状之事
一大事件尽衆議之説　被仰出候去月九日
突然非常御改革を口実ニ致し幼帝を侮
知ニ至候段以之至私論を主張候事
一主上御幼沖之折柄
先帝御依託被為在候摂政殿下を廃し
止参内候事

一 私意を以公事之方を恣ニ威張せし
曲事
一 九州を初諸藩之浪人を召入兇徒ニ衆を煽
動し兵杖を以
宮闕ニ迫り候条不埒
朝廷大不敬之至
一 家来共浮浪之徒を語合所々ニ屯集
江戸市中押込強盗致し市井を悩附
人殺其外ニ乱妨致し聊無差別
所々焼討劫盗及ひ其程逃方明ニ有之等
不届之至
以来政[illegible]去御定を[illegible]内乱所[illegible]ニ及候
二百余人ニ而乱妨致押込候
騒乱之始末
一 極悪之者共撰ニ浪人共召聚府内ニ集メ不届
其外不届之所業ニ付以上

正月十六日（右者壱岐守殿ゟ向井本松右衛門殿へ之文）　加賀加様

以飛札致啓上候、然者来ル御鷹之鶴拝

以尺令ゟ

上様還御之節、遠以御感被思召候、御老中

之御方ニ様子も不承候

御機嫌ニ而御緩々御座被成御在国之

御方ニ様ゟ明ケ春日ゟ御国安被

思召御機嫌ニ而目出度御帰国御祝被

之御事ニ御座候、右之方ニ而候御太儀ニ存候

書中ニ申述候、恐惶謹言

大久保加賀守

大和

同月來

以飛札致啓上候、大御所様大納言様

公方様益御機嫌能被遊御越年

致猶得貴意候、恐惶謹言

松平陸奥守

正月十六日

一

入生田庸之介

松平豊後守

守田七

太郎兵衛

永田恵次郎

松平阿波守

根本熊次郎

御休息之間

藤堂和泉守様

同為御年寄中　松

佐竹右京大夫様

右同断

立花飛騨守様

右同断

竹之丞様

右同断

今十四日高立

還

一御作事方奉行電江家老壱人

一右出雲輪番受取被渡之　御使番

右付十七日ニ出立

向ノ書付

赤松右衛門

一 杉原阿波吉度　両ノ紙
　杉原安藝吉度　両ノ紙
　杉原淡桑之紙　両ノ紙

進物御同席中より右之一ヶ所ニ足左
殿ゝ両ゝより右反通之ル

但半紙ニも
右ハ阿波杉原等ニ可書

十三

此度御家督之上御礼之為大和守殿
播之浅紙 稲葉安藤対馬殿
御実体ニ候之通大目付村役紙
より之御役御同席中 振舞ニ
御通之被成候右御礼大目付紙之

御通之趣ニ而ハ先達而茂申遣候様

ゟ之通拵替御通之相改候得共

江彼是先々御断二付右様之次第被仰遣

右御頼旁可申入如此候以上

三月十六日

松平[illegible]内

[illegible]

[illegible]雄之

[illegible]

松平加賀守様

御留守居中

佐竹右京大夫様

右同断

立花飛騨守様

右同断

[illegible]方様

右同断

松平飛騨守様

右同断

松平綱松様

右同断

上様御年頭御祝儀ニ付為
右今十三日西丸ニ而[illegible]被成[illegible]候
御静謐参達　御上使を以[illegible]候
如此御座候ニ付早々一筆致啓上候

正月十二日

右之通

吉日

以使状致啓上候然者大目付衆ゟ[illegible]候
御書付写壱通[illegible]所右[illegible]通
達候、然大和守様ゟ[illegible]大夫[illegible]此段[illegible]相[illegible]
[illegible]中様以上

正月十二日

井[illegible]太夫内
星[illegible]
和田要人
松平大和守内
小倉[illegible]
三上雄之[illegible]

内沢ニテ御同
遠藤和泉守様
出羽守右中将
松平右京大夫様
右同断
並河様
右同断
三宅能登守様
右同断

猶〻[illegible]相達候
前〻[illegible]此間中[illegible]
七月通達[illegible]善[illegible]光之長[illegible]候
披露[illegible]大円[illegible]
正月十四日
大目付
松平大和守殿
[illegible]大夫殿
右同断
大目付江

明十有日　例月之出仕登城ニ而出張（以下）

相済ひ　一

正月十六日

右ニ付前為御礼相越ス

以書状阿波守江相伺候處自筆差出候

来ル廿日大炊頭殿村瀬大蔵へ別紙

相手取方へ致返事阿波守へ別紙可相達旨

御阿波守方上ニ而別紙廿三日以下相達之上

同かし　御用之儀ニ付阿波守方へ出勤

上右於阿波守殿之御屋敷ニ長屋ニ而差出ス

正月廿三日

松平阿波守内

守田与

大郷安右衛門

永田与次郎

松平阿波守内

大西藤之助

桜井甚次郎

松平加賀守様
其周方右中迄
藤堂和泉守様
右同断
佐竹右京大夫様
右同断
立花飛騨守様
右同断
津軽越中守様
右同断
丹了様
右同断
松平飛騨守様
右同断
松平祠松様
右同断

此段従尾張大納言様松平大蔵大輔殿可被
上候旨　御月番様ゟ家来を以差出候ニ付先　三日
先供之右四家閣門迄相揃候処松平淡路守殿

家業芸諸道皆拒伏芸ありし伸絶
治し遊変化波より反仮犯芸場を無誑
暴し実守動度ぬを全淫羅大丈家業走一[illegible]
に帯業に有らし剥鏽
敵に忠朝敵し名を負せ他流頭に名を漏動
し人心疑貳なる絶き戦利あらされ武名恥ハ
賤賞し人第撰れのこ[illegible]下年寧る
家深律言も不知賞給治に深曲直判分
不知之に宜不知言に深心痛入に[illegible]宜
依き尽退も有し兵深く掃軍撰而下先乗
帰没に無之中突に厳も二月とに為誘之同心
職刀為閣家を抽忠節矣
右河分撰而御座り
以衰没後に於ま太閤御代[illegible]諸
治業[illegible]邊二[illegible]右[illegible]没
題[illegible]大和[illegible]丈[illegible]年最[illegible]遊桐[illegible]

相成申候以上

正月吉日

前橋家老

星健宮

和田要人

松平大和守

岩崎[illegible]

三上雄之進

（此節手紙）

藤堂和泉守

（右同留守居中）

佐竹右京大夫

右同断

此一戸様

右同断

立花飛騨守様

右同断

稲葉ハ御宿坂之處取扱ニ付書付寫左之通取遣

右ハ三之丞様之同列中ニ而預り無之趣

不容易通達ニ付差支候段茂申来候

右之本多大内記方江可相渡候以上

四月廿五日

大目付

松平大和守殿

榊原式部大輔殿

右同断

大目付江

但十五日例月之出仕無之候ニ付而被成渡候由

相触候

四月十三日

右者若殿様御成之節申来ル

十六日

来ル十七日品川沖朝湯より松平右京大筒的打

諸船往来之節海岸付近掛り合無之様可被申付候

其節猥ニ寄付間敷旨可被申達候以上

四月十六日

石川越中守殿

奉

本多大内記

稲葉和泉守殿　奉

佐竹右京大夫殿

松平備前守殿　奉

立花飛騨守殿

浅野越中守殿

土方様

松平薩摩守殿　奉

松平桐松殿

右ハ同断

右之廻状御渡所ニ付佐竹様御所江さし出ス

覚

酒井雅楽頭殿御家来廻達之者共為見廻差遣候

右之者共会津出張ニ付早々帰国可申付

候間其方ニ而も可被返候以上

正月十日

稲葉和泉守殿

佐竹右京大夫殿　奉

大目付

立花飛騨守殿
津軽越中守殿
戌ノ方様　奉
松平能登守殿
松平相模殿
右留守居

覚

左ニ府
一万石以上

同　庚語会

右ハ来十九日四ツ時西丸江可被[illegible]候旨被仰[illegible]候
[illegible]年御[illegible]差急之[illegible]之壹段被[illegible]
可被達候事

二月十四日

右之[illegible]書付[illegible]依衆[illegible]候

七ヶ

以飛札啓上候、然者[illegible]被成[illegible]遊旨
委細之趣麻布[illegible]書を以被仰出候、大切之旨
義被仰　拝承仕候以[illegible]被成
[illegible]被仰付候以上
[illegible]月[illegible]　[illegible]　[illegible]
右者[illegible]四年[illegible]相届候

十二日
以急報致啓上候、然者去[illegible]御曲輪内出火
之節　御留守中ニ而在府
諸大名[illegible]
御方之様表里御[illegible]被使者
義一[illegible]趣之[illegible]御[illegible]不[illegible]度[illegible]旨去ん
寛延元年十二月中[illegible]御[illegible]
松平周防守様[illegible]御[illegible]二年

正月御年賀一両日御氏ゟ御祖父公
出仕者御通達与兼而存之趣候
得貴意令被
還御等可有之承知巳刻之通御勤
出仕方与存奉勤之御為清
閑暇稽古葉相候而御用方
御用人関口与之及会之変
前之通御儀御勤有之
方御心得之来候中御依之
巳刻之通御曲輪朱引内出大
之節御左府之
御方之様之御儀御使者
御著出来御国之
御方之様之被一通之
御回勤御日清
着州来御候此

澤吉之丞嫡女出生ニ付上

正月十六日　加藤加孫

吉之丞様出生披露ニ而御目見被仰付候処以上

廿二日

以奉書致啓上候　内藤紀伊守殿被申渡候

吉之丞事七日今汁時御城江参上可有之登

候恐々謹言　大振之用意致候様可申上

正月十六日

右同人

以奉書致啓上候　酒井雅楽頭殿被申渡候

然者此父より可登　恐々謹言

御稼業候様被仰吉之丞今日今被仰渡候

殿中御用被代　酒井雅楽頭殿被申渡候　恐々謹言

當日同人被仰渡候　此度　宿中御書

代小普請十二被申渡候　以上

右之趣之様式振之段御申渡以上

正月廿三日

右同人

右之夜覚泗方へ以手紙依某様旅后さ了ん

以手紙致啓上候然者古之[illegible]存候

十七

御[illegible]

御国白　御用

一筆啓上

[illegible]

[illegible]

[illegible]様

川[illegible]様

十六　御手紙[illegible]　御座之

[illegible]在候[illegible]知[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以手紙致啓上候

十八

[illegible]様

右者九才ニ相成候ニ付入門為致度存候ニ付
悴之義御弟子ニ被成下御指南奉希候
以上
正月吉日　たれ人
たれ殿

慶應四戊辰年
御同席
大御目付廻状
兼内務知
二月中
陣西中居方

二月節涌風少女

稲葉淡路と称

但馬丹波と称

伊豆志摩と称

越後佐渡と和

長門近江と和

備後駿河と和

周防和泉と和

限手之力

八

卯二月

松平大隅守様
稲葉丹後守様
[illegible]田主殿様
朝倉[illegible]守様

[illegible]日

以飛脚申上候、稲葉美濃守様被仰渡
而去ル十七日上意[illegible]
[illegible]年寄[illegible]

一 稲葉美濃守様大目付被仰渡、去ル廿日[illegible]
八月廿日[illegible]

一 松平[illegible]守様[illegible]去ル七日[illegible]
今日[illegible]

右之趣ニ候ニ此旨被相心得候様以上
月中十九日　加賀　加源
右者万石以上之面々手紙ニ而達之

二日

安藤對馬守殿ニ此方ニ而呼出シ
同日[illegible]
一　[illegible]
板倉佐渡守殿
[illegible]
伊勢同梅也

出雲殿流之刀之達候　御免
源五　源秀
大目付壱人并御目付中御目付衆
源五郎
一　酒井雅楽頭殿御渡候書付
以書付[illegible]
[illegible]
[illegible]
右之通[illegible]

三日

[illegible]出棺後[illegible]此翔日夕刻

右ニ通

猶又葉[illegible]出[illegible]候（此者代猶葉[illegible]候）

御内殿ニ[illegible]而上之[illegible]御殿

御免

右於葉表百[illegible]安之[illegible]候ニ[illegible]以後ニ

一[illegible]年用[illegible]候[illegible]ニ[illegible]

御引[illegible]大ニ[illegible]大ニ[illegible]御[illegible]　摂木ニ

生ニ也

右ニ通ニ也御生ニ出此後如ニ[illegible]如[illegible]

[illegible]

二月二日　妙[illegible]如[illegible]

右之[illegible]出[illegible]

四日

以飛札致啓上候然者石川若狭守様御出府被成

右去年六月廿日ニ当地へ着し候得共今日も登

城其後段々延引仕候猶又御用之儀も御座

候ハヽ六月二日

候人

右之通

六日

以飛札致啓上候然者先達而被仰出候御儀ニ付

右不快ニ付去ル廿六日ニ御届申上候

今日も御登城

此段為御知如此御座候以上

二月五日

加藤加賀

右之通

一筆啓上仕候然者御同役中

右ニ付御知らせ申上候以上

難波右衛門 長岡越中侍従殿 江上

六月廿七日

丹羽五郎左衛門
長秀
和田寿人
松井友閑
宮内卿法印
三上郎花

四條二月日

道意和泉守殿

施薬院 中

佐久間右衛門尉殿

たゝ紙

主殿能登守殿

たゝ紙

代官様

たゝ紙

門参及後以公儀御所存之處連判候

九月十日 以宗林被仰有先度以書面

通分委細四郎可被申候

一 出雲守殿より差上

土屋相模守
四月廿日

（御名代）
松平大和守殿
（御名代）
丹羽左京大夫殿

追啓 御用番中より通達有之候 以上
以後月番より御通達御座候 以上

右之面々御役替被仰付候

八日
堀田相模守殿 御老中被仰付

永井飛騨守殿
御奏者番寺社奉行兼帯被仰付

御勘定吟味役より御勘定奉行被仰付候

一 阿部豊後守殿 御役御免

松平右京亮殿
御奏者番寺社奉行被仰付

[illegible]ニ而[illegible]取計候也

右之趣美濃守殿江御達し

右之書付平岡丹波守江相渡ス

一　当家善右衛門儀取扱方之儀ニ付[illegible]

様ニ御座候ニ付[illegible]

但[illegible]年[illegible]取扱[illegible]

右之趣[illegible]申上候処[illegible]

[illegible]以上

二月七日　[illegible]

右者[illegible]　七月三日

此[illegible]上ニ而[illegible]古之通

酒井雅楽頭様

御名代

本多[illegible]様

此段[illegible]右之[illegible]被仰渡候

御免如前之溜詰被仰付之

右於御黒書院溜老中列座上候

被仰渡之

松平周防守様

[illegible]名代

松平備中守様

於内縁頬之様も有之ニ付出殿

御免如前之帝鑑間席

一　絵符之

右於白書院縁頬敷際之席老中列座上候

被仰渡之

松平薩摩守様

[illegible]名代

稲葉備後守様

於内縁頬之様も有之ニ付出殿

御免如前之菊之間縁頬詰

老中列座被仰渡之

一花飛脚を被様
出府代
一花飛脚ヲ以申候
此内飛脚之儀者厳ニ申出候
事免出来之様ニ御座候而帰与
終日ニ候
右様菓芋薬宜薬安心可被下与
仕候ニ付

右ニ而逃ニも出立候出候而不知ニ候
出立ニ付上
十二月六日　加増被録
右ニ付出来
十三日
此旦我殿儀上石銀并支度
上様御帰　拙者ニ極申付出曲
輪内出来之節何出様無之段

為念稲葉美濃守殿并甲斐方迄
聞合之上ニ而ミ追而可相勤哉之旨
方之被相調中候處先達而此方被申談并
候處先之義ニ付候ニ付能及相違ニ
御令之職務ニ付置可申旨猶以相勤而
被相届事
御家中之様此節御勤之報兼無之
奉存候間御様御儀之儀も被相届事
以方ニ而も先日此年印被成候方ニ而御座候
段ゟ御家方ニも右相調之
被申遣候
御家之様此節御座候被仰候
此別段之出候ゟ申越候此段
被成之様奉存候為其如此御座候
此段申上候以上

二月十三日

右同人

右之趣也候

十二月

以飛脚啓上候然者此節御渡候迄

御役御免

一　永井玄蕃頭殿

御名代

三好大和殿

一　平山圖書頭殿

同

御名代

一　板倉式三郎殿

太和英吉郎平兵衛御渡　右御渡ニ付　御渡

御使者布施縫殿ニ而御家来衆御渡被成候

右御渡ニ付

右之趣御渡ニ付[illegible]以上

二月十日

小嶋小源

大川

十二日

此通被致候旨被仰合候右之通
小笠原安芸守殿
代
小笠原伊勢守殿
猶々被申候趣も委細ニ承知仕候段
御免可被下候
右之通ニ御座候ニ付猶又宜敷様ニ
此段申上候以上
二月十一日
右同人

右御返事
十二日
當役御役替之儀ニ付右之通
此御紙面
若狭守様御家
右之通ニ御座候 以上
阿部飛騨守殿
京極主膳殿
名代
平岡丹波守殿

以飛札之[illegible]以来[illegible]之[illegible]紙以外
京[illegible]紙以[illegible]子之御[illegible]
大切[illegible] 委細
此旨御通[illegible]候[illegible]御承知之申
之[illegible]以上
二月十四日　　　　大[illegible]人
大[illegible]殿

同く

[illegible]相中大[illegible]紙之[illegible]候
以[illegible]紙之以[illegible]中二而[illegible]候
一[illegible]以上
早[illegible]大[illegible]御[illegible]
以[illegible]紙[illegible]大[illegible]
[illegible]之[illegible]大[illegible]
[illegible] 以上

丹[illegible]右衛門[illegible]

六月十六日　　黒渡右
　　　　　　　和田安之

（松平安房）藤堂和泉守様
　　　（以上御手紙）
牧野豊前守様
　　たゝ江
立花飛騨守様
　　たゝ江
津軽越中守様
　　たゝ江
内藤様
　　たゝ江

稲葉美濃守殿渡被仰出候留置候右
書付を以相達候得共此度御触
無之候ニ付尚又申達候
姫路ニ御座候間相済候得共御届候
可申候以上
六月十六日

大目付

松平大和守殿
丹羽左京大夫殿
　　大目付江

覚

王政復古ニ付　御出仕之面々万石以上之面々
以来万事ニ而御取扱振之儀ハ追而可被仰出候得共
諸向取扱万石以下之面々ニ一同[illegible]之事

正月

大目付江

十四日

営中御殿上之間[illegible]
一此出仕之者[illegible]ニ而[illegible]
[illegible]取扱[illegible]数寄屋坊主ニ而[illegible]
[illegible]

二月十六日

松平阿波守内
根本熊太郎

溜之分
松平加賀守様
松平安芸守様
松平陸奥守様
松平三河守様
松平因幡守様
細川越中守様
藤堂和泉守様
上杉弾正大弼様
松平兵部大輔様
有馬中務大輔様
南部美濃守様
佐竹右京大夫様
松平肥前守様
松平阿波守様
松平出羽守様
立花飛騨守様

松平大和守様
松平出雲守様
松平壱岐守様
津軽越中守様
酒井左京大夫様
松平右近将監様
伊達遠江守様
松平能登守様
南部遠江守様
式部様
亀井隠岐守様
松平周防守様
松平楓松様
正蔵之総半相
東叡山ニ而修復中西御儀も
此度松平確堂ニ而所兼而被仰出候

御出候而も至迄之通刑部卿ニ而御座候ハゝ

此度

御追討使以書面之[illegible]被[illegible]

御出陣之節遂之其[illegible]掃[illegible]入

其意入以外[illegible]大将全軍ヲ一身ニ兼

より生し候事ニ而

天照之[illegible]通一云々申上相成度奉存

何経し

御海岳ハりし候之[illegible]遣[illegible]命渡しも

出拝ニ而別紙之通

参上仕候[illegible]比叡山ニ[illegible]途ニ

[illegible]罷出[illegible]一身ニ引受候[illegible]

頼朝ニ[illegible]上洛[illegible]

存之[illegible]和[illegible]

御[illegible]何[illegible]

遠[illegible]参候[illegible]道[illegible]

尊答

御追善爲御回向大般若経轉讀被遂

御奉納候処誠ニ以殊勝之御儀奉感入候次第ニ御座候

依之入念御尊牌一身之事者至生前之義

天恩ニ而御祈禱一巻ニ乍然猶更以次第ニ候

此上何分ニ

御取持之程奉願御承知被成下度候

尚又叡山ニ而諸院一統中ニも

厚申談し候条

官軍御向被成候ニ付被致候ニ付候共

も御沙汰被成下候尚又御供被成敵國候得共

ニ而御威福擾乱之を被成候尚又御供被仰人

殺生ニ之万一御取遠之儀御押込

より恭順之事義ニ失ひ候ニ候得共

此段深く恐入候深重

生霊塗炭之苦を萬民安堵可被

次男之介依若年

官軍ニ不相向候之趣付而私儀

二ノ丸下[illegible]去年之一身上ニ而罷在之上ニ[illegible]

謹慎之処先祖以来[illegible]法度[illegible]恭順[illegible]

懇[illegible]被下置事ニ而候也

大ニ感厚

御憐察之御下知文ニ被預

御宥免ニ相成候以後深御沙汰難有仕合[illegible]

此段乍恐以書付奉申上

二月　[illegible]乾

右之者共之儀取調候処相違無御座候

十[illegible]

岩淵[illegible]上古河[illegible]殿

京極主膳正殿

御代官
服部[illegible]殿

以内藤[illegible]殿

御免筆令啓達候　[illegible]

大樹[illegible]

[illegible]

[illegible]上

二[illegible]十四日

[illegible]

恐々

[illegible]上[illegible]

加賀守殿

石川[illegible]殿

[illegible]

石川[illegible]殿

此内[illegible]

御[illegible]

一堀内[illegible]

[illegible]

大通[illegible]

可被申達候以上

二月十九日　　加納遠江守

[illegible]

七十六

別紙書付遣之候得其意私領寺社領迄茂

可被相触候以上

二月十四日

松平阿波守殿　　戸田山城守

此ハ留守居中

松平美濃守殿

此ハ留守居中

松平陸奥守殿

此ハ留守居中

近習衆同席中江申達候様ニ可被致候

美濃守殿

大目付江

上様東叡山江被為成候節御溜ニ而御目見被
日光御門主御対顔不被為遊候ニ付霊屋
来ル十六日被遊還御上使被差遣候ニ付右之趣
相心得候様可被達候
二月

以長谷被仰達候御含之御目付衆相談被致度
より別紙之趣指越候所被差遣候様可被成候
以上

二月十八日
松平信濃守
入生田備之助
松平美濃守
守田〻守
大路安右衛門
永田典次郎
松平阿波守
根本鐵次郎
右御同

松平加賀守様

松平三河守様

松平周防守様

細川越中守様

藤堂和泉守様

上杉弾正大弼様

松平兵部大輔様

有馬中務大輔様

南部美濃守様

松平越前守様

松平肥前守様

松平阿波守様

立花飛騨守様

松平大和守様

松平安藝守様

松平土佐守様

津軽越中守様
丹羽左京大夫様
松平右近将監様
伊達遠江守様
松平肥前守様
南部遠江守様
右二方様
亀井隠岐守様
松平飛騨守様
松平綱松様

右七人留守居中江

追啓去比遠方ゟ御状ニ付
此二方様分御内被申上候処追而一左右可有之候

以呈状致啓上候然者近日老中様方若
年寄様方ゟ御取次被成候御内意御座候ハヽ又ハ此節
御知セ為可申進得貴意候恐惶謹言

就[illegible]向[illegible]帰[illegible]若[illegible]方

[illegible]

御刀[illegible]遣[illegible]及[illegible]年[illegible]候一方

御会[illegible]已後右之[illegible]相背

[illegible]右[illegible]彼[illegible]

[illegible]以上

二月吉日

[illegible]

右之状[illegible]三行[illegible]

同六日

以最役営之儀ハ以為之去ル正月拝送

一 稲葉美濃守様

同名代
一 稲葉熊次郎様

同内藤之儀ハ先年之儀右同役　御規式茶之

一 奥之御酒詰　御祝儀

対役七

一 同阿人様

稲葉家ハ以後之役[illegible]ニ成り候ニ付[illegible]申達
当年[illegible]ニ[illegible]添[illegible]役ニ
[illegible]之[illegible]以清国[illegible]
[illegible]清国[illegible]
大日本[illegible]以清国[illegible]
[illegible]
[illegible]
已上

以手紙致啓上候、然者大岡才蔵田
和泉守殿堀淀之御役より川試之
越候ニ付御心得ニ候、此段申達候
以上

六月十六日

松平陸奥守
高田弥助

松平安芸守
守田　守
大野久米之助

香田丞太郎

松平阿波守
根本熊次郎

小笠原大膳
松平加賀守様
松平土佐守様
松平周防守様
細川越中守様
浅芸ニ和泉守様

上杉弾正大弼様
松平兵部大輔様
有馬中務大輔様
南部美濃守様
佐竹右京大夫様
松平越前守様
松平阿波守様
松平出羽守様
立花飛騨守様
松平大和守様
松平淡路守様
松平土佐守様
津軽越中守様
丹羽左京大夫様
松平大[illegible]監様
酒井左衛門様

松平飛驒守様
南部遠江守様
此方様
亀井隠岐守様
松平薩摩守様
松平相模様
御留守居中様
追啓 以後之事ハ此方様より

阿波守方へ御返事ニ不及以上
右之趣書状写可申候様可被成候へさし上候
以上
以飛脚致啓上候 公儀之此方より[illegible]
二月廿三日
御国本奉行殿
河津江之丞殿
大高氏 御目付衆定之浅野
一 宛所之様ニ 御返ニ

右之趣申出張先江相知可申候
以上

三月

右之廻状當四月写置候

加納　加藤

慶應四戊辰年

御開扉

大御目付廻状

萩内爲記

三月中
御河内守辰方

三月御用番　小安

出雲之郷中川備海江殿

平岡丹波守殿

酒井甲斐守殿

石川河内守殿

平岡越中守殿

原、源十郎殿

加藤丹後守殿

御同心方

酒井對馬守殿

板坂源三郎殿

津田吉三郎殿

以長役替去ル廿二日被仰付也

廿日

一 阿部遠江守殿

（御名代）

一 水野式部少輔殿

肩衣紗綾も有之候ニ付御役

（御奥番之頭）

御頭御役御免之旨

右之通ニ付出仕之節諸役人相済候

加賀少将

二月三日 右之段夜前廣沙汰ニ付 柴様へ差上ル

以書状致啓上候然者表之通

去ル

若之事

加國寺ニ

何も其人々称

右之

御借用金壱ケ年限之訳

右之

御様ニ

右之通御座候以上

御附紙之通

二月二日

右之

右之段

此度
一　右両人儀

御国内御用向ニ付諸人為探索罷越候

此節江戸表出府仕候

右ニ付道中宿々御継立被成下候様

宿之処ニ泊り之儀ハ旅籠并人馬賃銭之儀ハ御定之通相払

若日[illegible]大中[illegible]紙[illegible]之儀ハ[illegible]如件

此段御承知之上[illegible]候　以上

二月七日　加治加賀

右之屋敷御預ケ年来御預ケ置候得共

太吉

以剪紙致啓上候然者此度改候也

此二日家

若年寄

前八郎兵衛

右之家

御名於蕨更長之松平権兵衛

江御渡し

右之通唐人座被振被仰付候哉以上

十月廿六日

右同人

右同断

以剪紙致啓上候然者今日改候也

此側荒樹

此酒井着

海部達江候

若年寄

右之家

御名於蕨更長之松平権兵衛様

依願之

右之趣ニ付[illegible]被[illegible]之

二月廿七日　右同人

右同断

寺社

列座[illegible]年寄[illegible]申渡之

[illegible]中山[illegible]可

[illegible]上

堀田和泉守

二月廿六日

松平阿波守殿

[illegible]

松平安房守殿

[illegible]

松平陸奥守殿

[illegible]

追而[illegible]

[illegible]

大目付江

[illegible]

其辺御家頭之者被仰付内抱置抱代

右二宮原ニ被召其継尾作向家根路等

高貴家居取立且服其貫目之等

乃継代之手代九月直高限度ハ以年

三倍何以段友一ノ市云々

右之紙以之坐以辞新候年之候

戸隠如二之節ニ

六月

右之通ニ付被聞届候ニ付

別紙申付置之通加之取計可申候

此段可被相達候以上

六月十六日　堀　淡路守

松平阿波守殿

當分ニ可申
松平以後ト称
ハ當分ニ可申
松平陸奥ト称
ハ當分ニ可申
追啓御同席衆中ゟも宜之旨ニ
候以
安作之丞殿
大関
廿日